

量子ネットワーク符号

西村治道(大阪府立大学理学系研究科)

2010年11月6日

IBIS2010, 東京大学 生産技術研究所

ネットワーク上での効率的通信

- ネットワーク符号 [Ahlsvede-Cai-Li-Yeung. 2000]
 - 通信理論とネットワーク上での配送理論の融合分野
 - 情報理論, 通信理論の研究者が研究の中心

通信理論

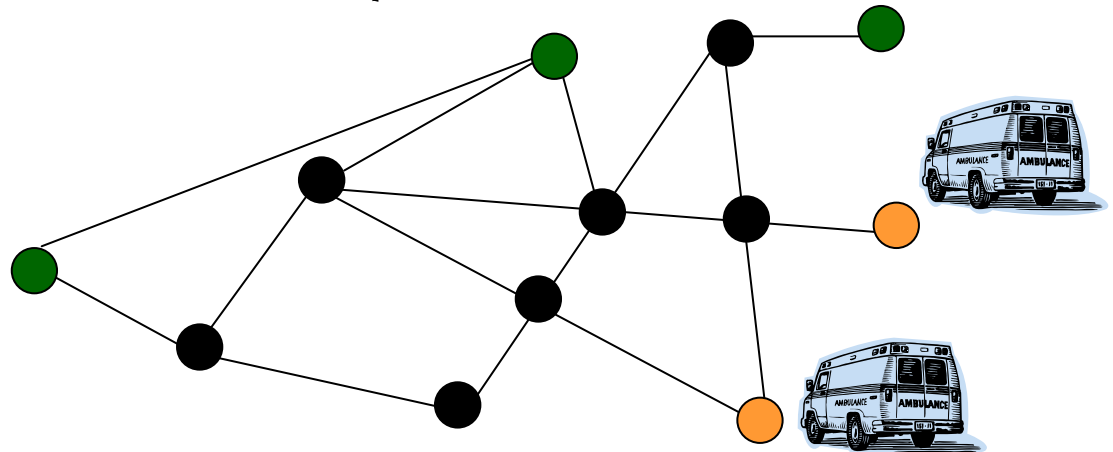
主に1対1の(ノイズを含む通信路における)通信に関する理論



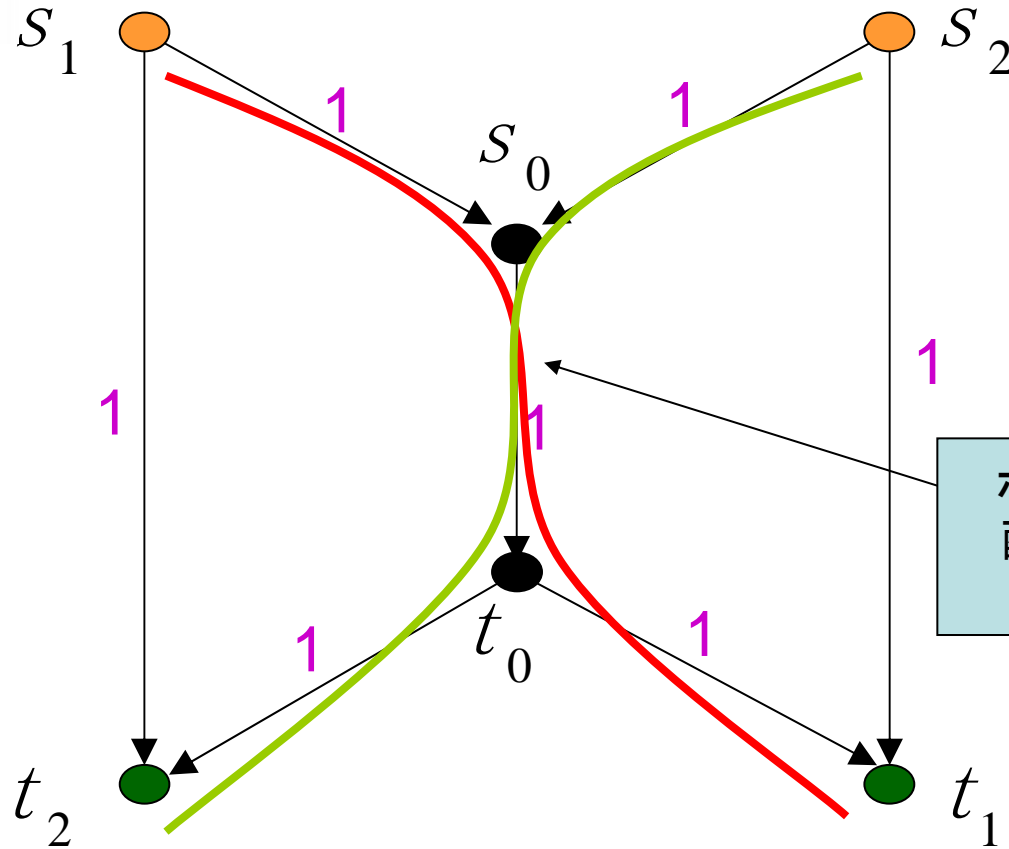
データ圧縮
エラー訂正
セキュリティ

ネットワーク上での配送問題

複雑なネットワーク上での効率的配送に関する理論



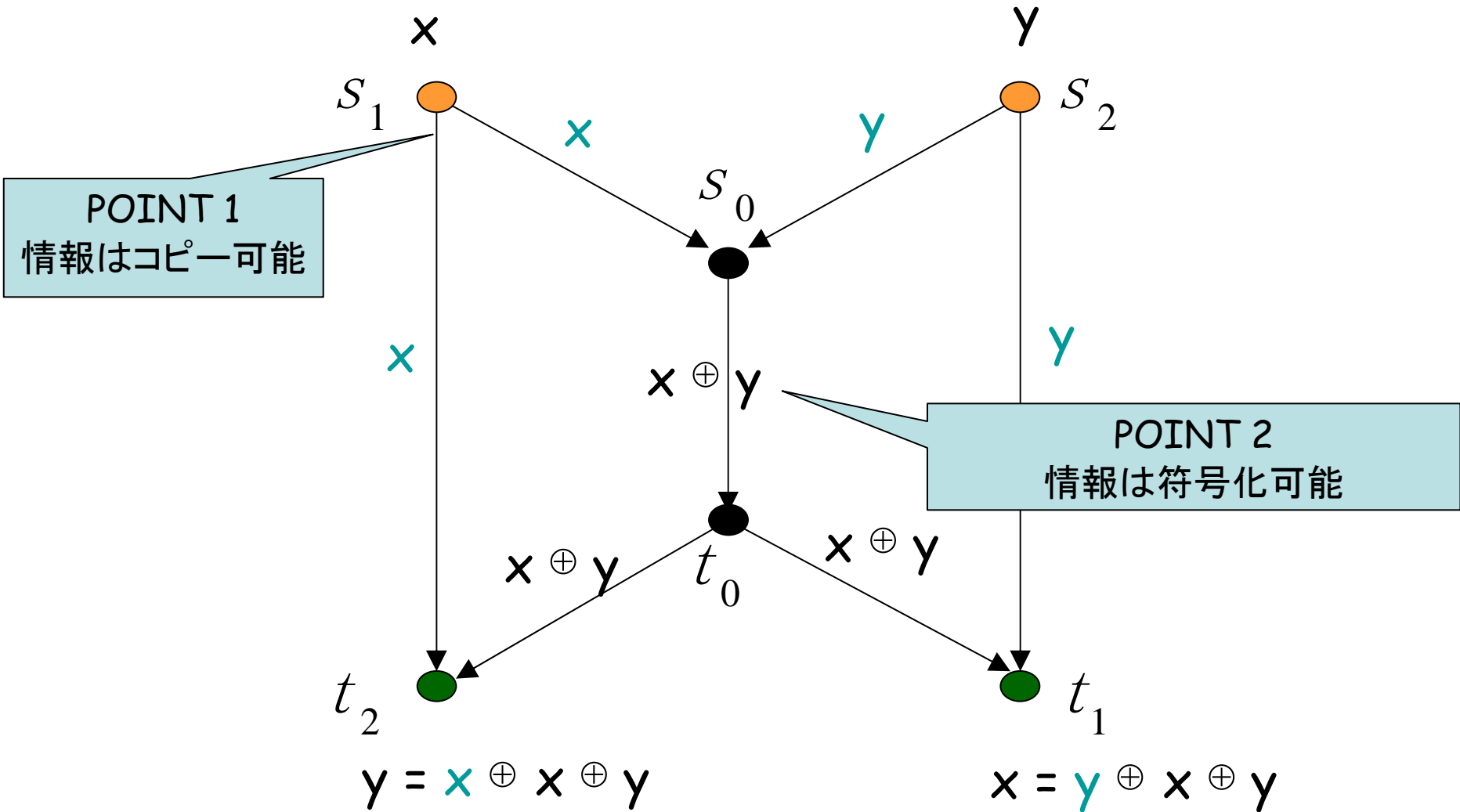
液体フロー (Liquid Flow)



Butterfly Network

情報フロー (Information Flow)

[Ahlsweide et al. 2000]



ネットワーク符号問題

[A. Lehman PhD, 2005 より]

- 入力例

- (有向かつ非環式) グラフ $G=(V, E)$
- Capacity $c(e)$ for 各辺 e
- k 個の品種(commodity)からなる集合 I
- 各品種 $i \in I$ に対するソースの集合 $S(i)$ とシンクの集合 $T(i)$

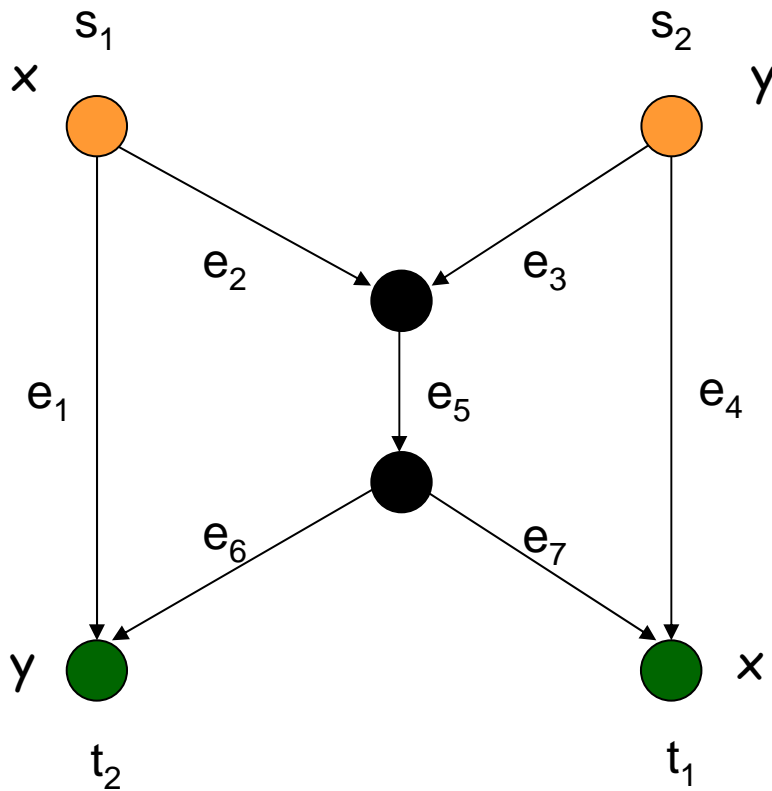
- Network code

- Alphabet Σ
- 各辺 e に対しての関数 $f[e]: \Sigma^{(e \text{ の出発点の入次数})} \rightarrow \Sigma^{c(e)}$

- Network codeの解

- $f[e]$ は $e=(u,v)$ へ入ってくる辺上の関数及び u がソースの場合のメッセージから計算可能な関数
- 各品種 i の各シンク $v \in T(i)$ に対し, v への辺上の関数から $S(i)$ に与えられるメッセージ $M(i) \in \Sigma$ が復号可能

解が存在するネットワーク符号問題の例



Butterfly network

全ての辺のcapacityは 1

2つの品種 X, Yがあつて

$S(X)=\{s_1\}$, $S(Y)=\{s_2\}$,

$T(X)=\{t_1\}$, $T(Y)=\{t_2\}$

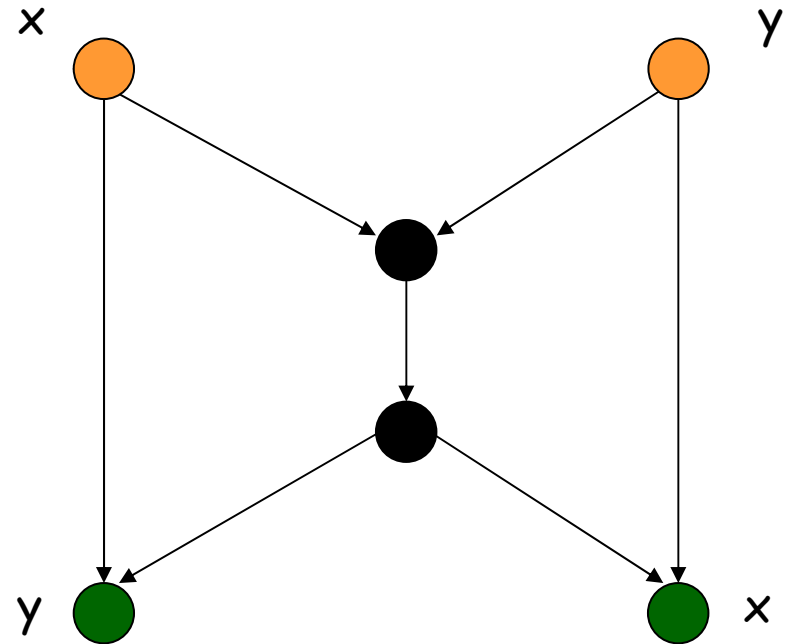
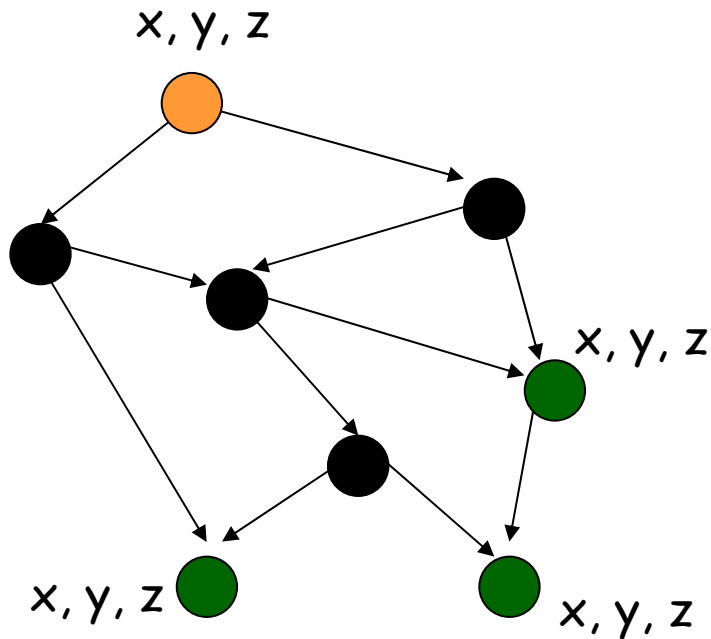
解(の1つ)はアルファベットとして $\{0,1\}$ を取り, 各辺に対する関数として

$f[e_1](z)=z$ ($f[e_2]$, $f[e_3]$, $f[e_4]$, $f[e_6]$, $f[e_7]$ も同様)

$f[e_5](w,z)=w+z$

である.

ネットワーク符号問題の例



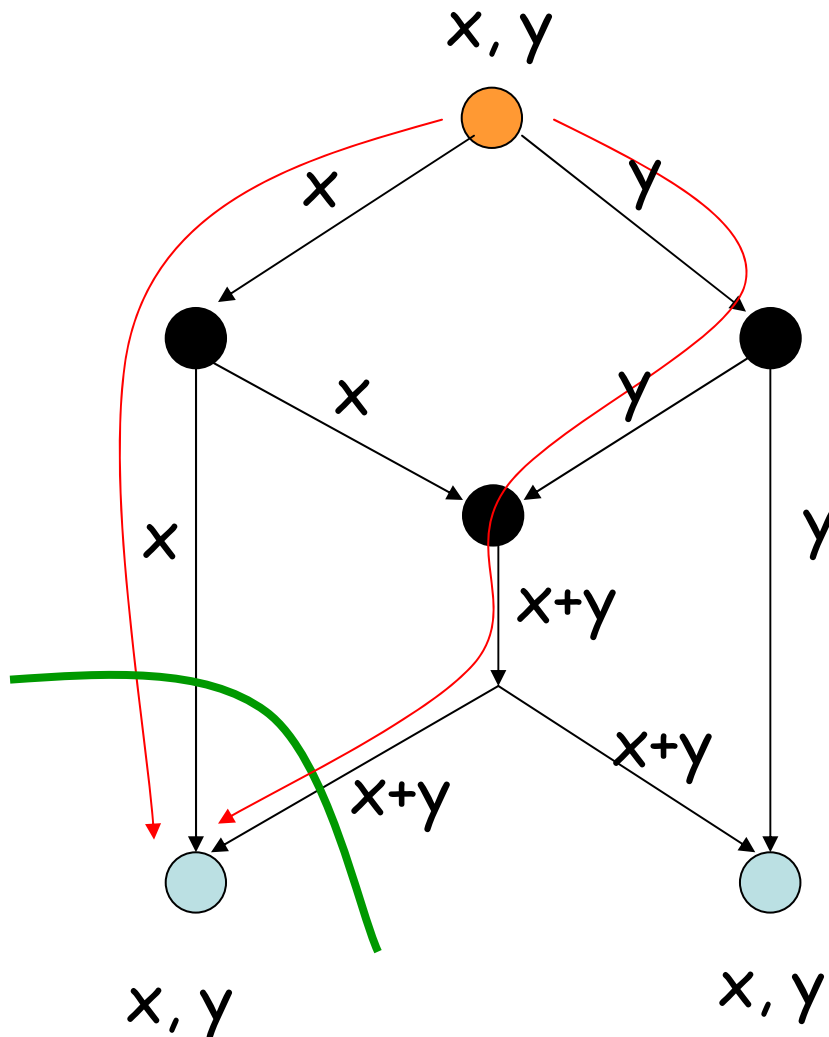
Multicast 問題:

ソースが持つメッセージ全てを全てのシンクが要求する

k-ペア通信問題 (Multiple Unicast):

k品種のそれぞれが1つのソースと1つのシンクを持つ. Butterfly networkは2-通信問題の一種

Multicast問題の例



Max-flow Min-cut 定理
ソースとシンクが各1個の場合、Min-cutを達成するような(ルーティングによる)Max-flowが存在する

Max-flow=2

Min-cut=2

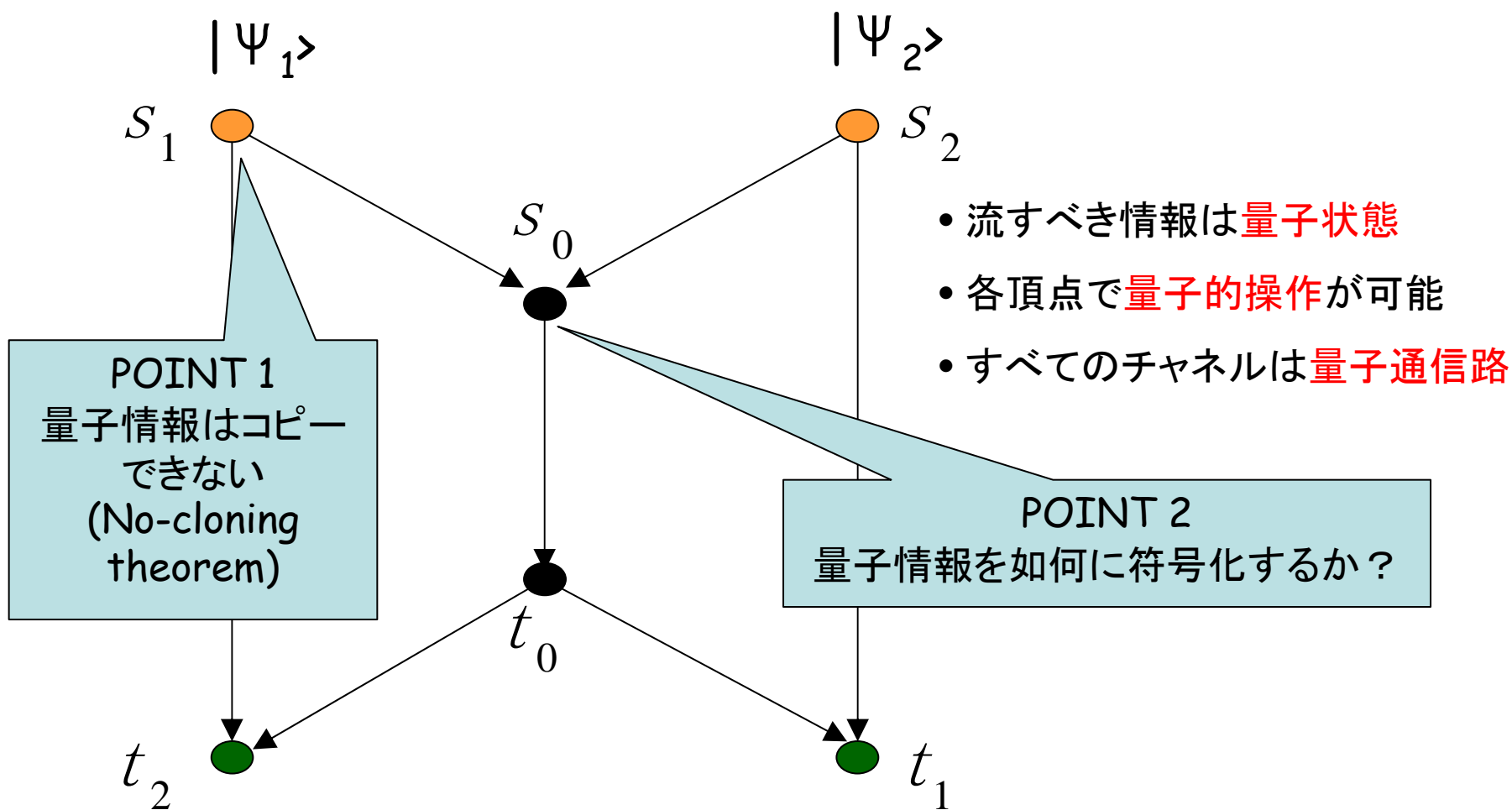
Multicast問題の場合、**符号化**を(しかも線形符号を)使ってMin-cutを達成するようなMax-flowが存在する [Ahlsweede et al. 2000, Li et al. 2003]

※しかも多項式時間アルゴリズム存在 [Jaggi et al. 2005]

kペア通信問題

- k がグラフサイズに依存する場合, 可解性は計算可能か否かさえ未解決
- 線形符号に限ってもNP完全 [Lehman-Lehman 2004]
- $k=2$ の場合, 多項式時間アルゴリズム存在 [Wang-Shorff 2007]
- k が3以上の定数の場合未解決
 - 体のサイズ有限の線形符号に限ると, 多項式時間アルゴリズム存在 [Iwama et al. 2008]

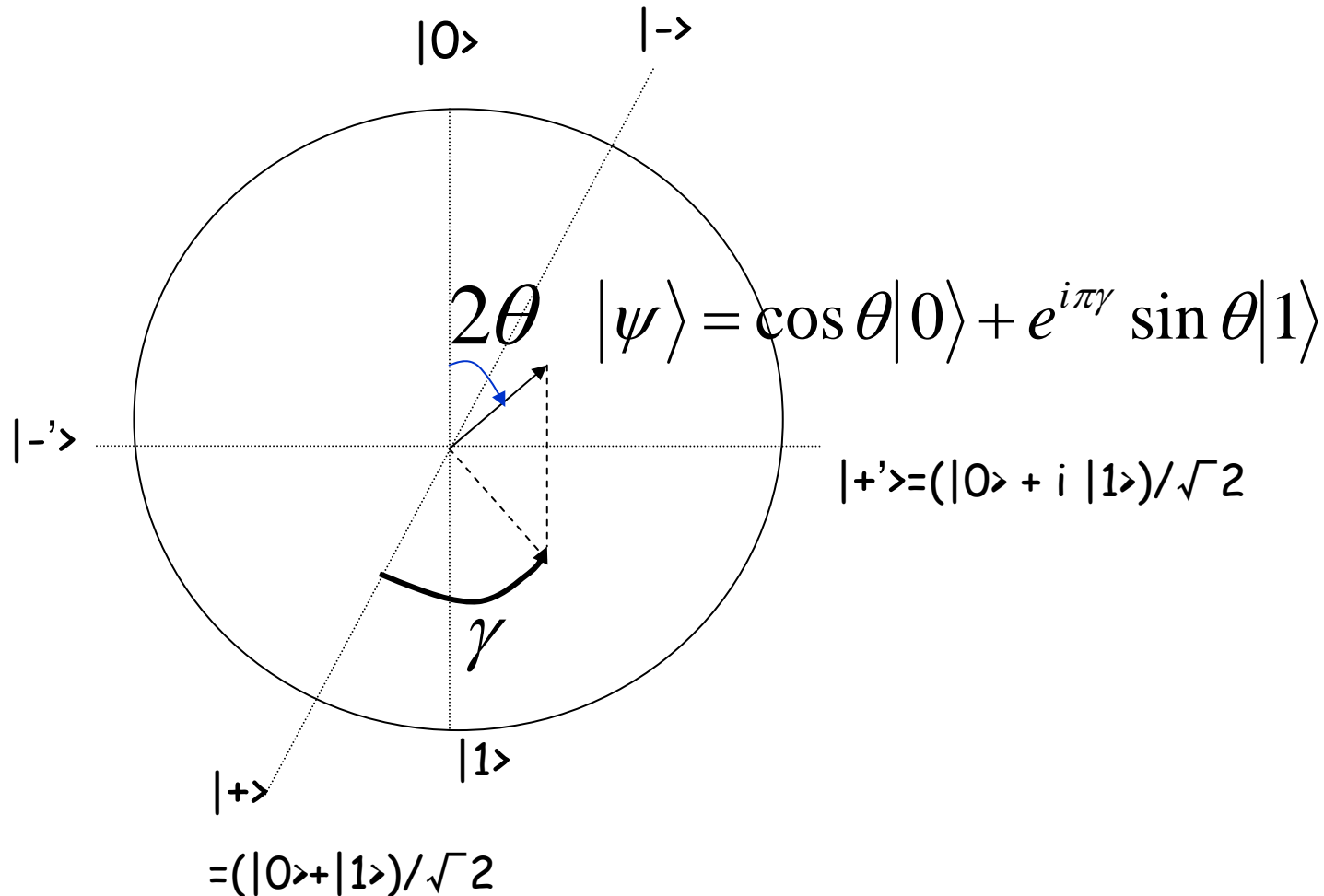
情報フローの量子化(量子ネットワーク符号)



Q. 古典で可解なネットワーク符号問題は量子でも可解か？

量子ビット

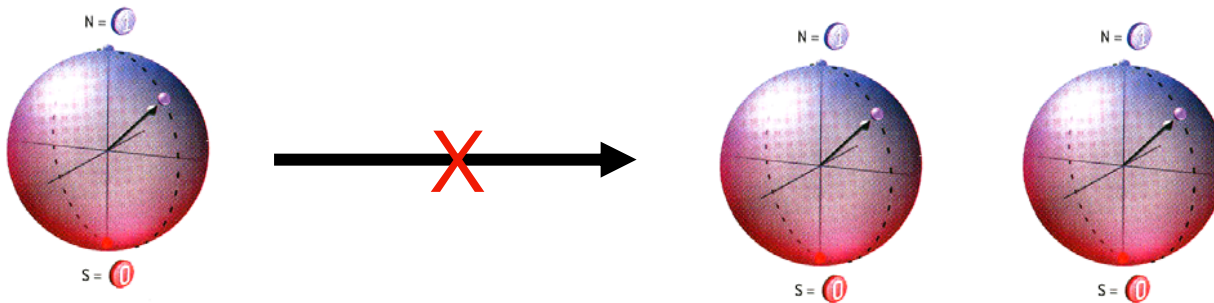
- 量子ビットはBloch球と呼ばれる単位球の表面上(及び内部の)点として表現可能



どうやってコピーするか？

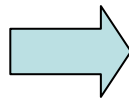
- ユニタリ変換を使ってコピーできればよいが、しかし・・・

(No-cloning theorem: Wootters-Zurek) 未知の量子状態は、正確にコピーすることは不可能.



$$|0\rangle|a\rangle \xrightarrow{U} |00\rangle|\varphi\rangle,$$

$$|1\rangle|a\rangle \xrightarrow{U} |11\rangle|\phi\rangle$$



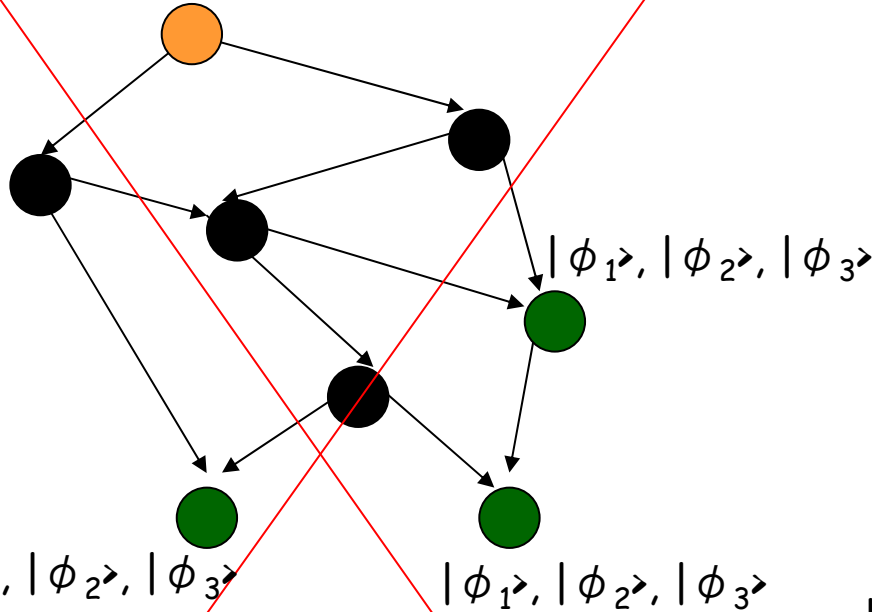
$$(\alpha|0\rangle + \beta|1\rangle)|a\rangle \xrightarrow{U}$$

$$\alpha|00\rangle|\varphi\rangle + \beta|11\rangle|\phi\rangle$$

$$\neq (\alpha|0\rangle + \beta|1\rangle)(\alpha|0\rangle + \beta|1\rangle)|\chi\rangle$$

ネットワーク符号問題の例

$|\phi_1\rangle, |\phi_2\rangle, |\phi_3\rangle$



$|\phi_1\rangle, |\phi_2\rangle, |\phi_3\rangle$

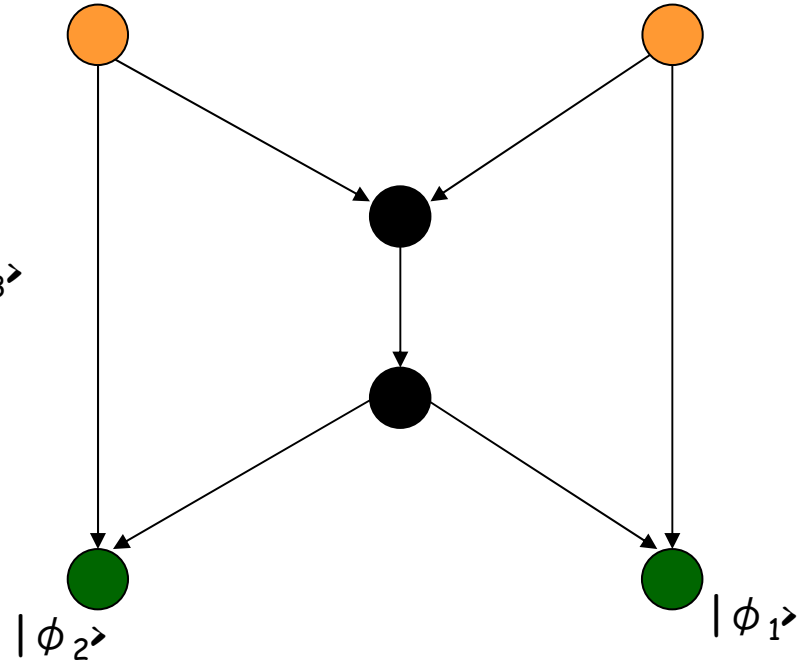
$|\phi_1\rangle, |\phi_2\rangle, |\phi_3\rangle$

Multicast 問題:

ソースが持つメッセージ全て
を全てのシンクが要求する

$|\phi_1\rangle$

$|\phi_2\rangle$



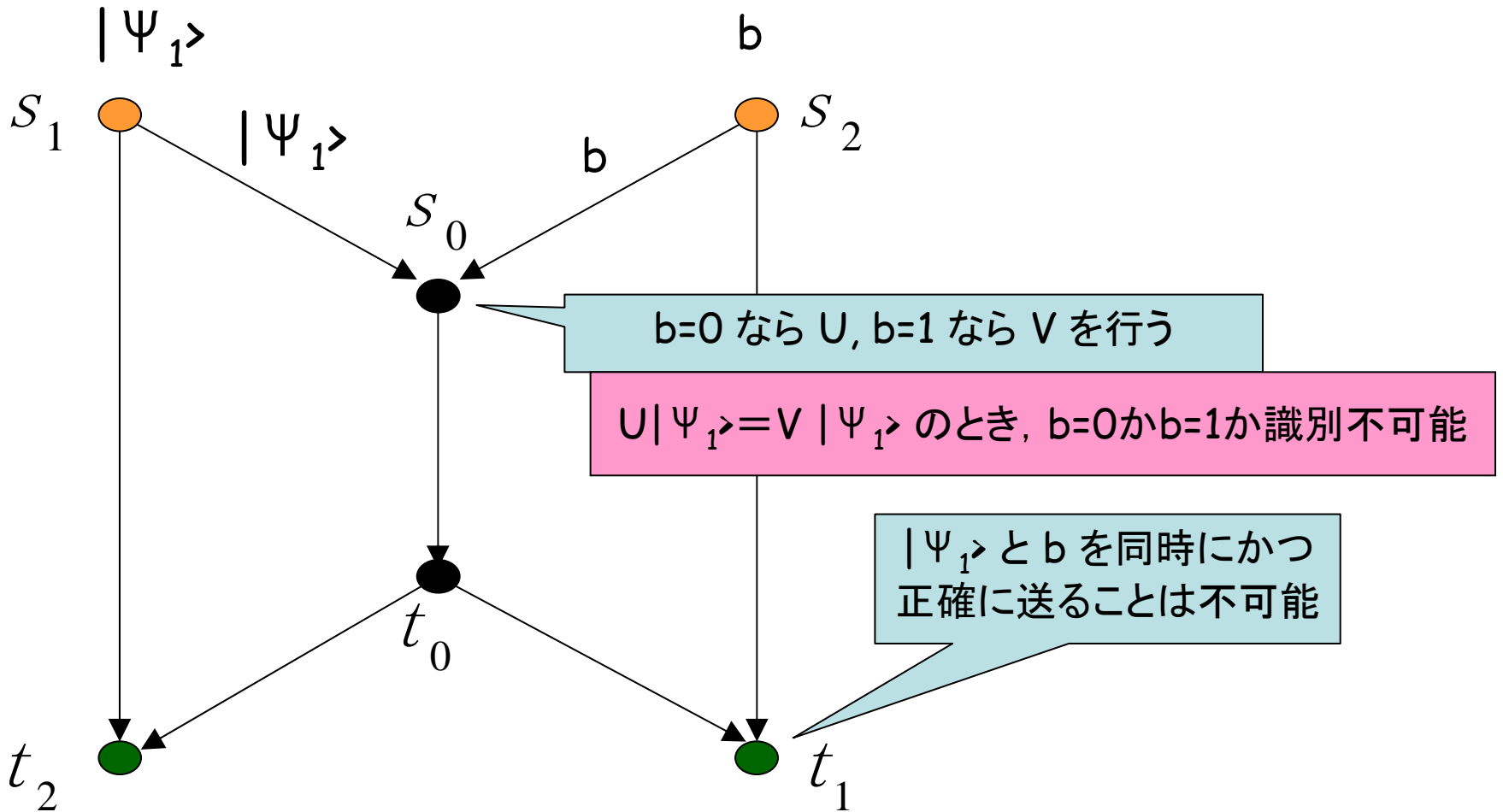
$|\phi_2\rangle$

$|\phi_1\rangle$

k-ペア通信問題 (Multiple Unicast):

k品種のそれぞれが1つのソースと1つ
のシンクを持つ

どうやって量子情報を符号化するか？



不可能性に関する結果

1量子ビット

$|\phi_1\rangle$



1量子ビット

$|\phi_2\rangle$



ネットワーク 1 回使用 (one shot)



$|\phi_2\rangle$



$|\phi_1\rangle$



m量子ビット

$|\phi_1\rangle$



m量子ビット

$|\phi_2\rangle$



ネットワーク n 回使用



$|\phi_2\rangle$



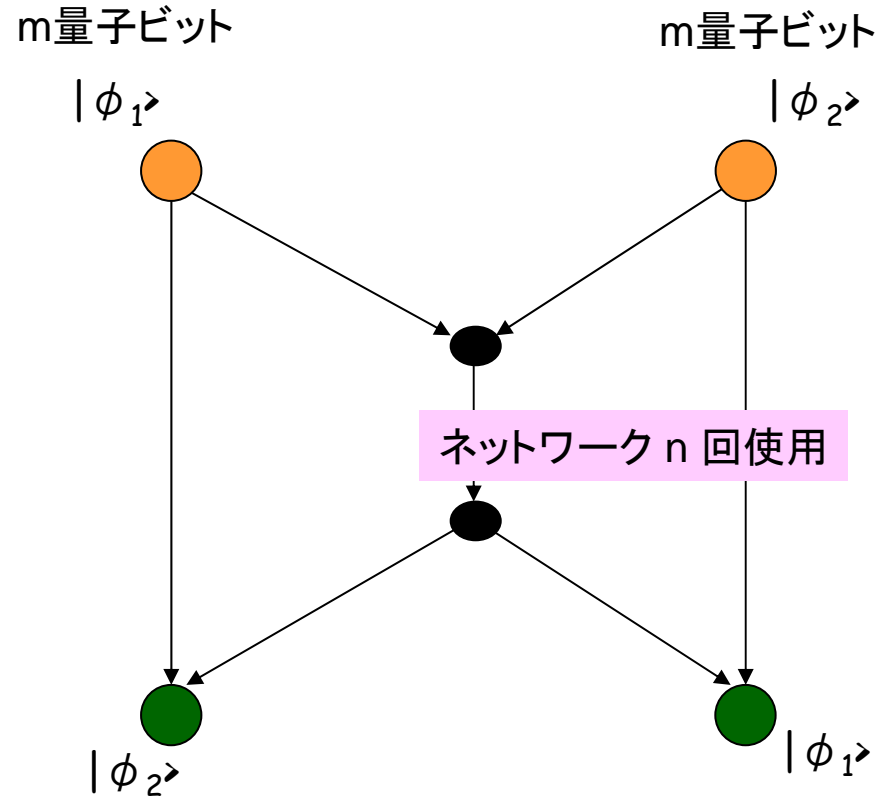
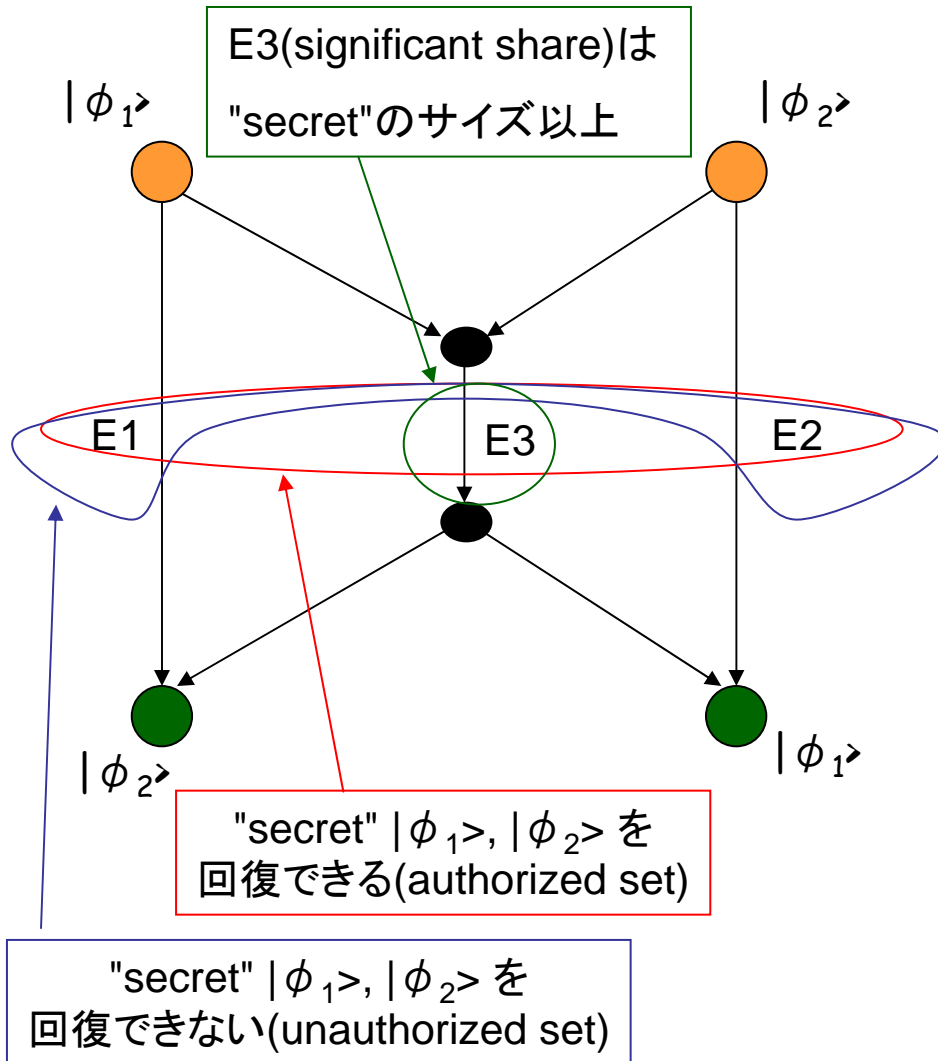
$|\phi_1\rangle$



ネットワークの1回の使用のもと,
1量子ビットを忠実に送ることは不可能
[Hayashi et al. 2007]

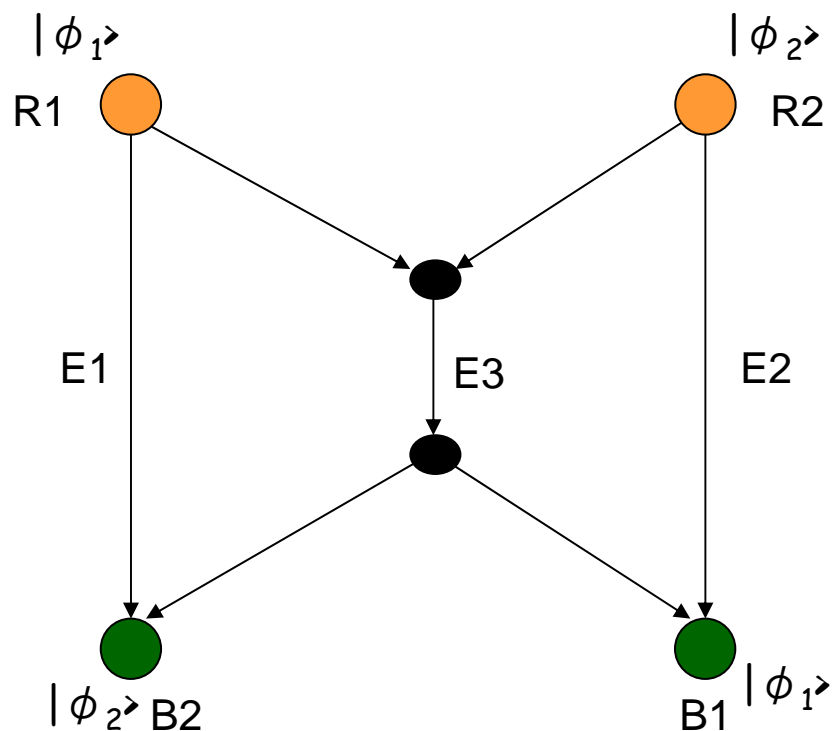
1量子ビットを忠実に送ることは
漸近的にも(つまり m/n が漸近的に1に近づく)
不可能 [Hayashi 2007, Leung et al. 2010]

不可能性に関する結果

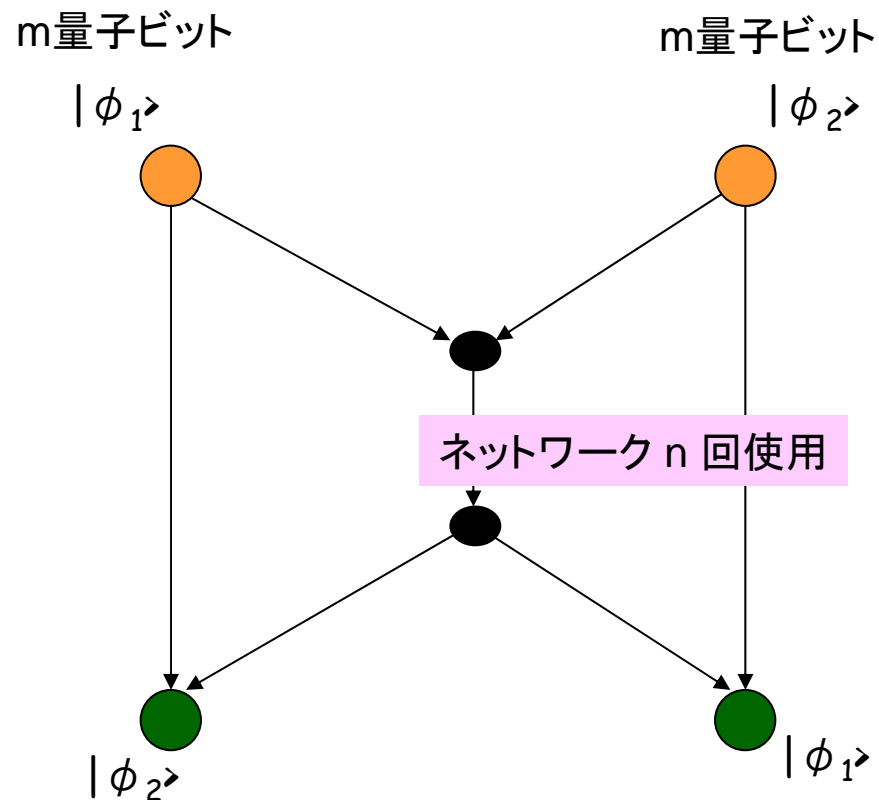


1量子ビットを忠実に送ることは
漸近的にも(つまり m/n が漸近的に1に近づく)
不可能 [Hayashi 2007, Leung et al. 2010]

不可能性に関する結果

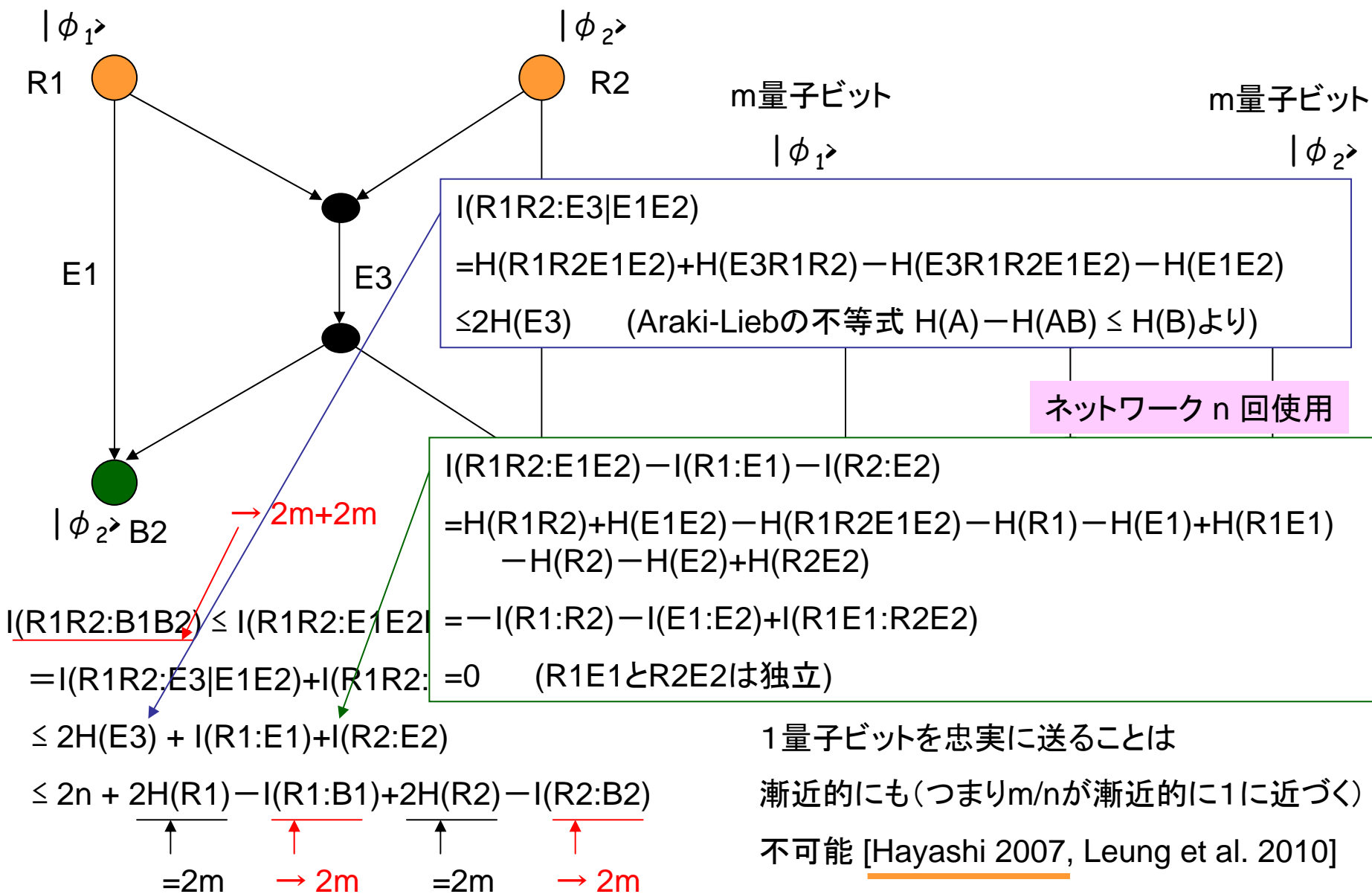


$$\begin{aligned}
 I(R1R2:B1B2) &\leq I(R1R2:E1E2E3) && \text{(単調性)} \\
 &= I(R1R2:E3|E1E2) + I(R1R2:E1E2) && \text{(Chain Rule)} \\
 &\leq 2H(E3) + I(R1:E1) + I(R2:E2) \\
 &\leq 2n + 2H(R1) - I(R1:B1) + 2H(R2) - I(R2:B2)
 \end{aligned}$$



1量子ビットを忠実に送ることは
 漸近的にも(つまり m/n が漸的に1に近づく)
 不可能 [Hayashi 2007, Leung et al. 2010]

不可能性に関する結果



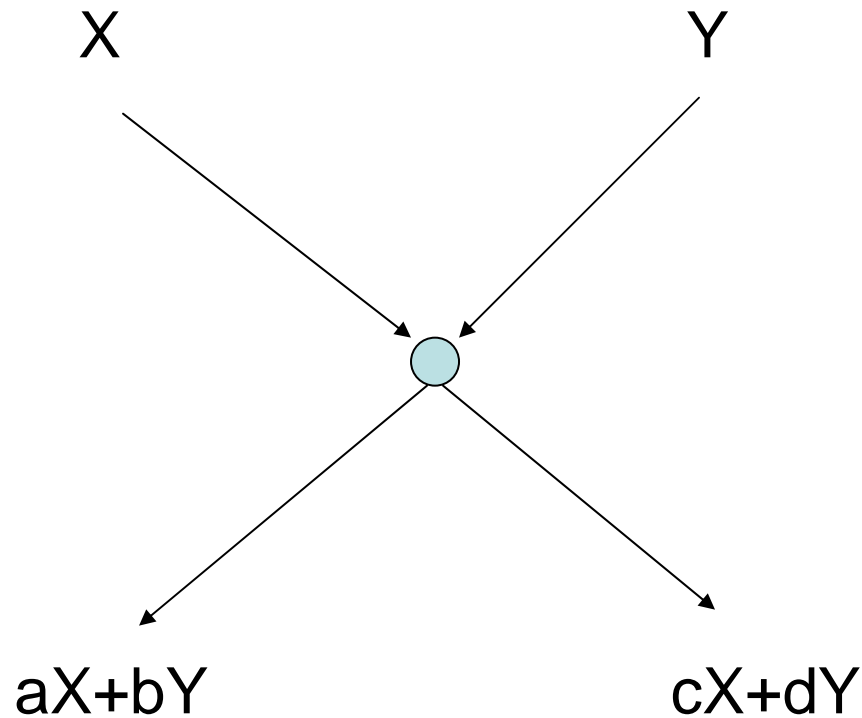
補助的なリソースを認めると...

- エンタングルメント
 - ソース間 [Hayashi 2007]
 - 各辺の間 [Leung-Oppenheim-Winter 2010]
- 古典通信路 [Leung et al. 2010, Kobayashi et al., 2009, 2010]
 - 量子通信路より安価 『 LOCC(Local Operation & Classical Communication)は量子通信より易しい(?) 』
 - 古典通信を自由に認めることで, 量子通信路の使用回数を減らせるなら...

Q. 古典で可解なネットワーク符号問題は, 古典通信を自由に許すことで量子でも可解となるか?

A. 古典のネットワーク符号問題の解が線形符号化で実現されているなら, 量子でも可解 [Kobayashi et al. 2009]

線形符号によるネットワーク符号



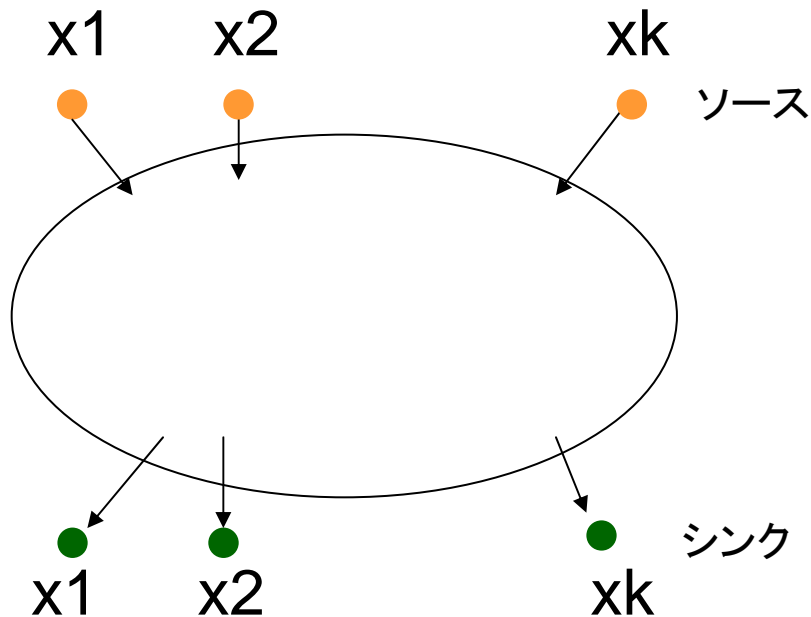
各頂点での出力が入力の線形結合であるとき、**線形**という

プロトコル

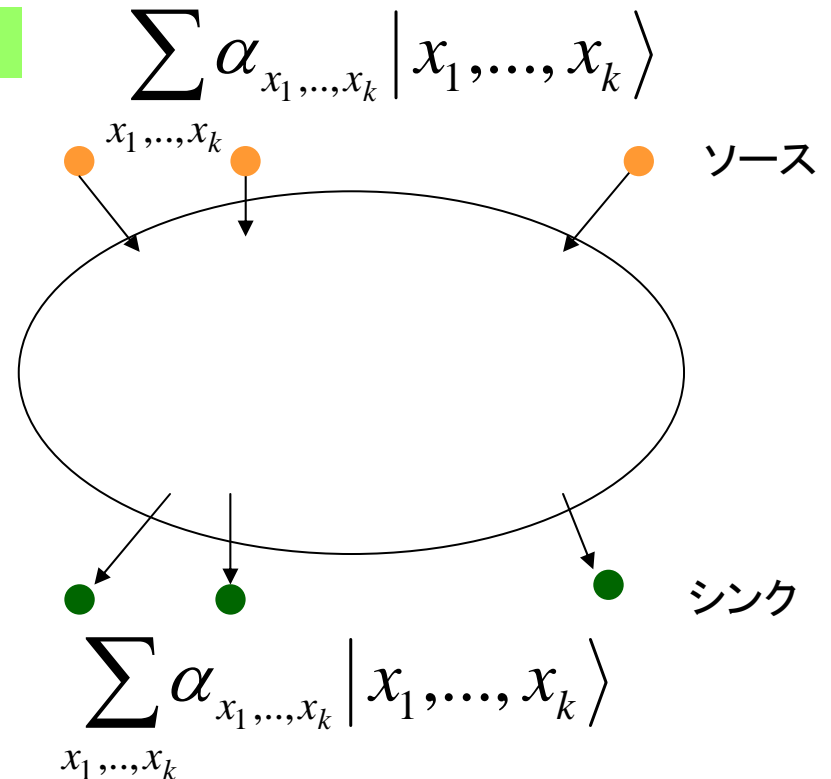
- 基本アイデア

- 各ノードごとに古典の操作を模倣
- フーリエ基底による測定
- 測定により生じた位相エラーをシンクで修正

古典



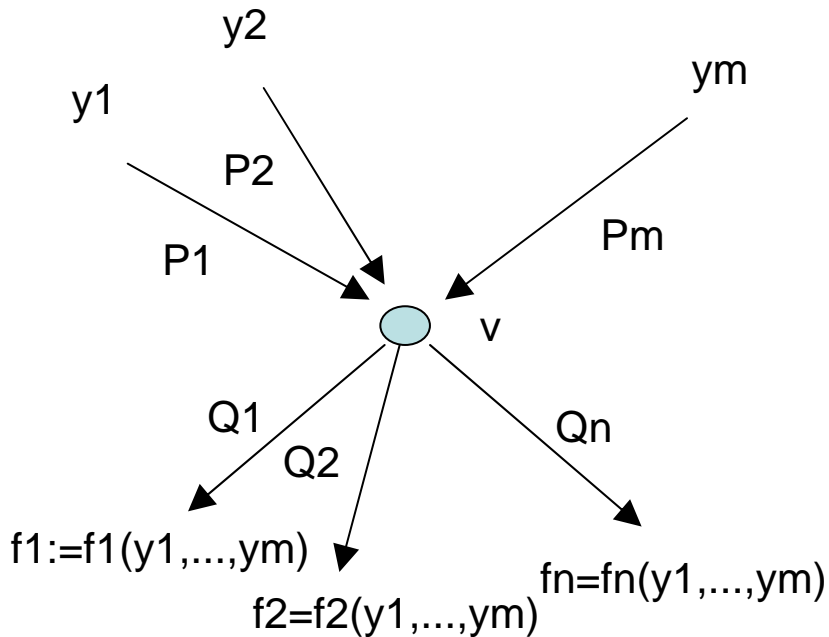
量子



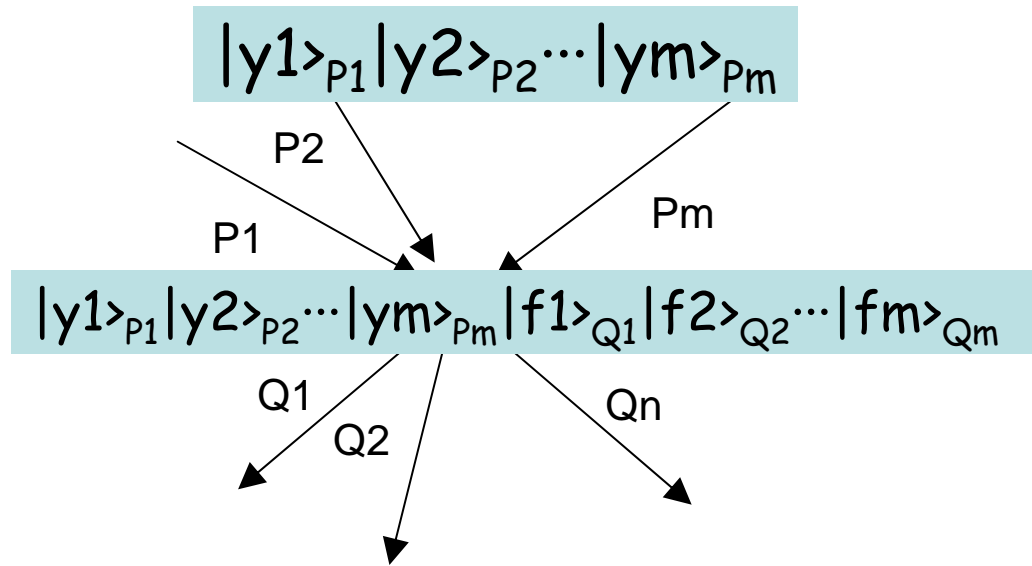
各中間ノードでの操作①

古典

解が体 F_p 上での線形符号
で実現されていると仮定



量子



① ユニタリ変換

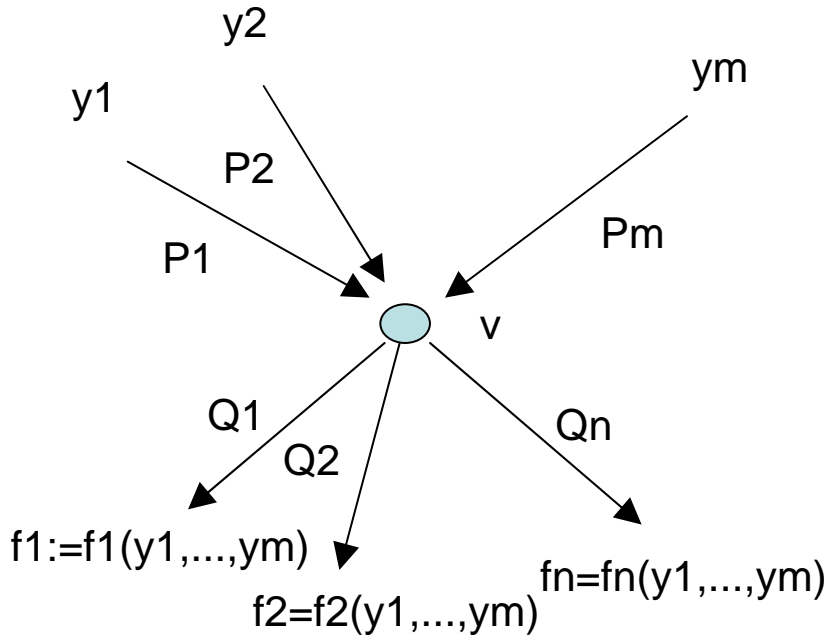
$$U_{f_1, \dots, f_m} |y_1, \dots, y_m\rangle |0, \dots, 0\rangle \\ := |y_1, \dots, y_m\rangle |f_1, \dots, f_m\rangle$$

を施す

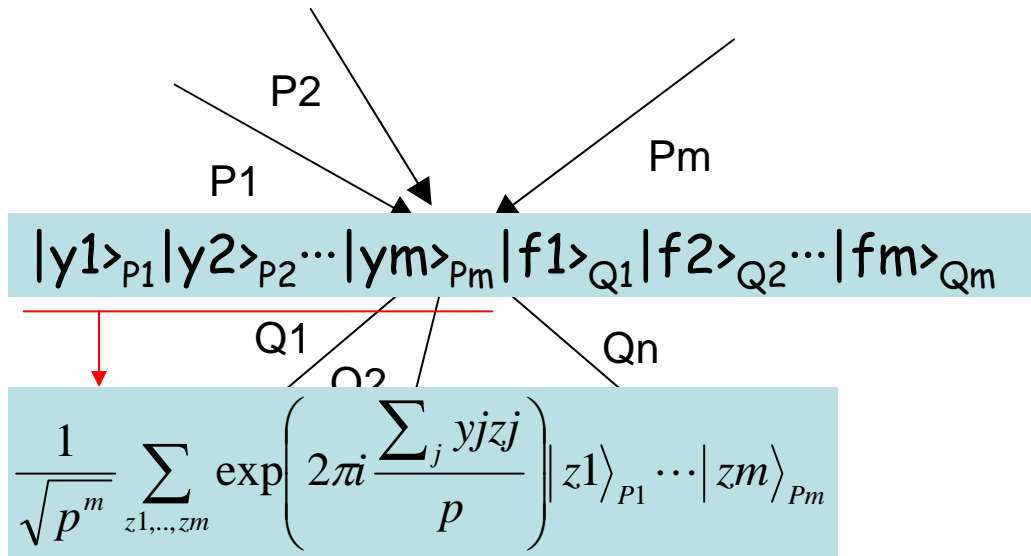
各中間ノードでの操作②

古典

解が体 F_p 上での線形符号
で実現されていると仮定



量子



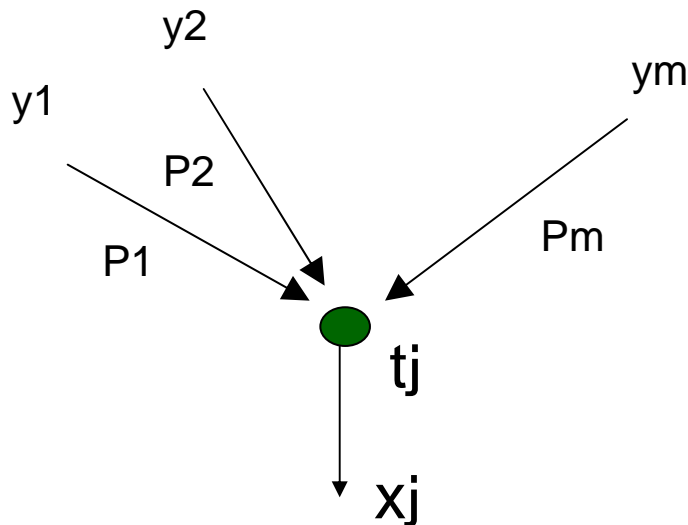
② P_1, P_2, \dots, P_m にフーリエ変換

$$F|y\rangle := \frac{1}{\sqrt{p}} \sum_z \exp\left(2\pi i \frac{yz}{p}\right) |z\rangle$$

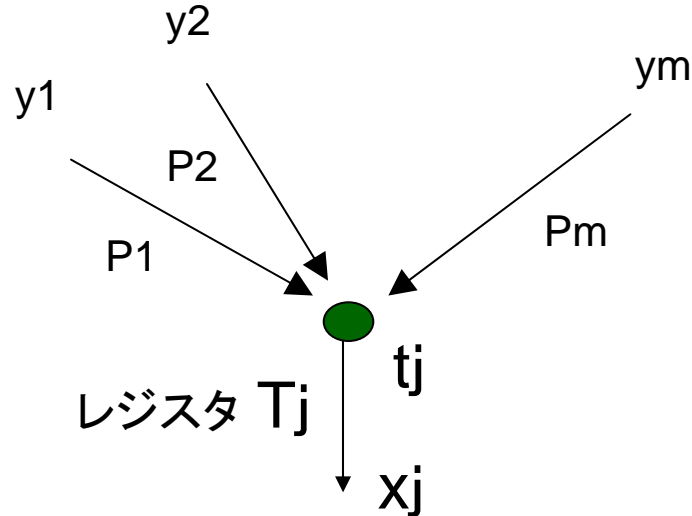
を施した後測定し、測定値 z_1, \dots, z_m をシンクに送る

各シンクでの操作

古典



量子



位相訂正前

$$\exp\left(2\pi i \sum_v h_v(x_1, \dots, x_k)\right) |x_1, \dots, x_k\rangle_{T_1, \dots, T_k}$$

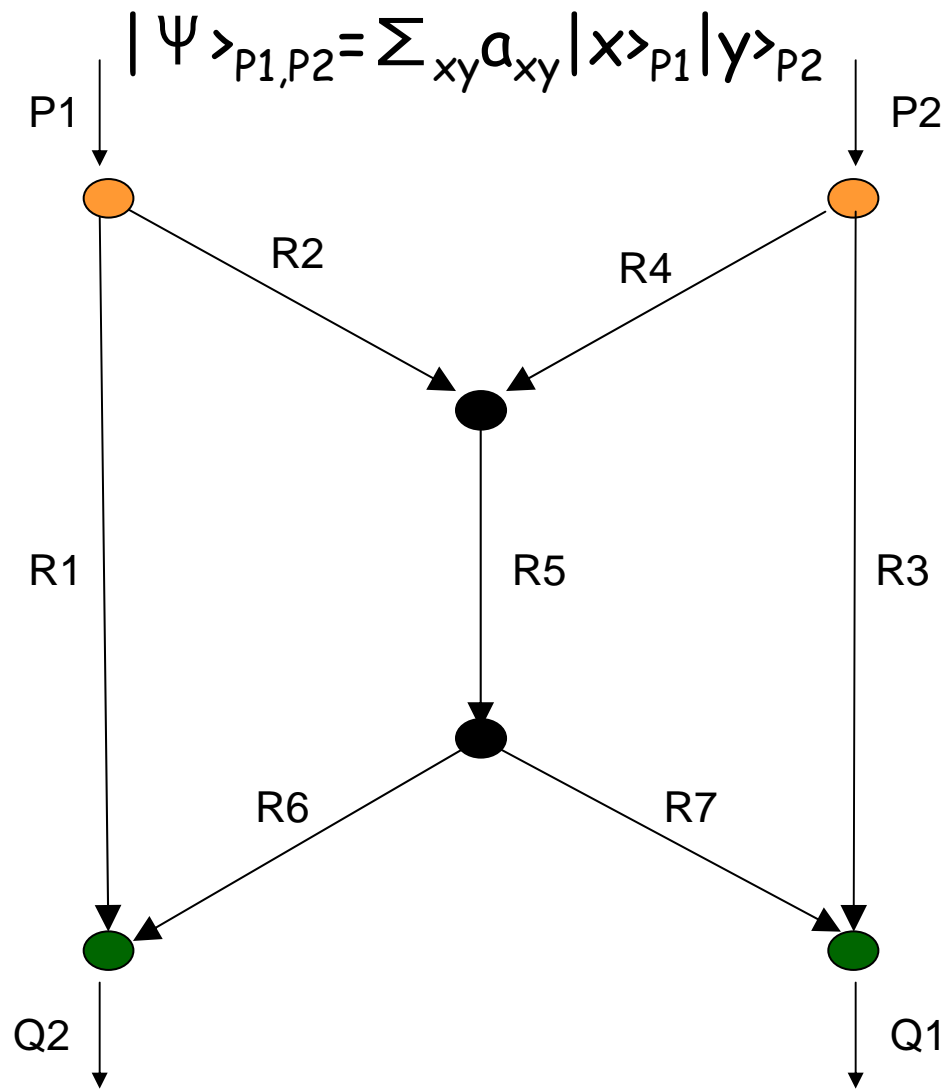
$$h_v(x_1, \dots, x_k) = h_{v,1}(x_1) + \dots + h_{v,k}(x_k)$$

中間ノード同様の操作に加えて、
各中間ノードからの測定値情報をもとに
位相エラーの訂正を行う

$$|x\rangle \mapsto \exp(-2\pi i h_t(x)) |x\rangle$$

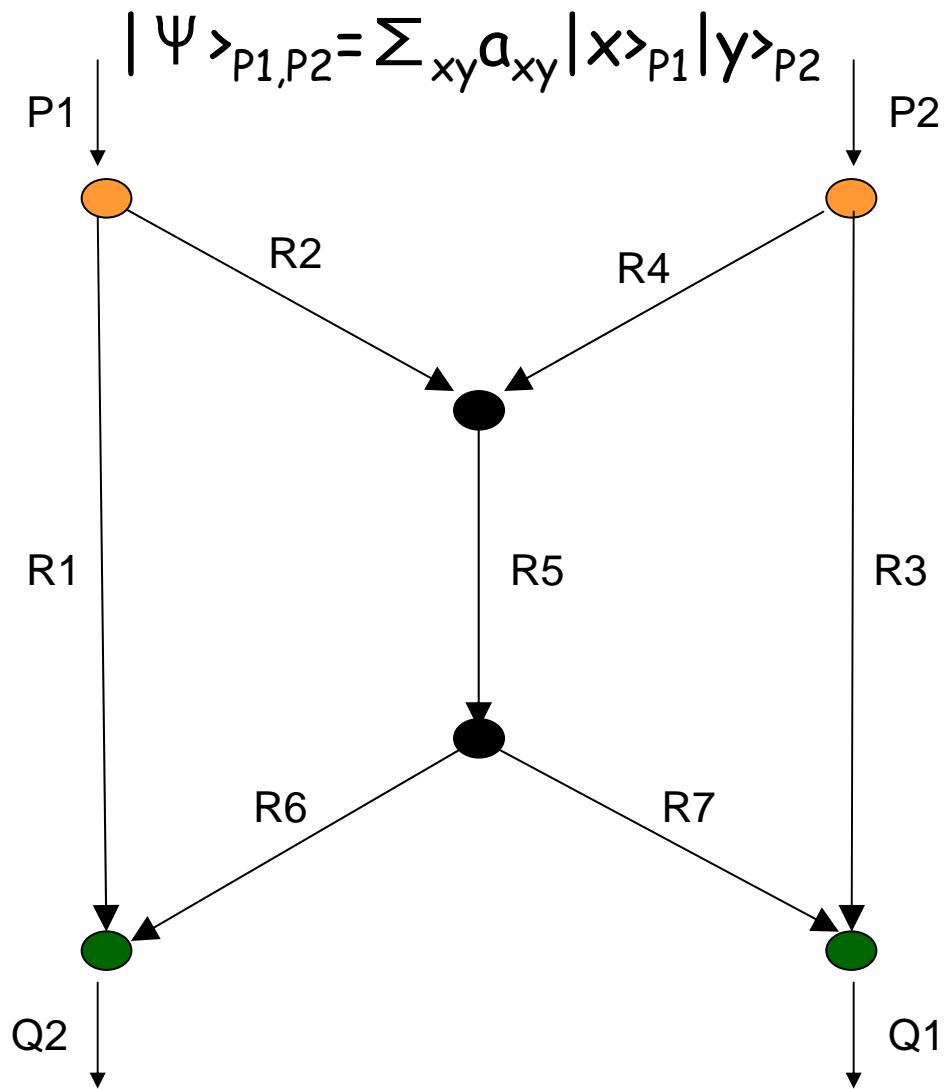
位相エラー

具体例



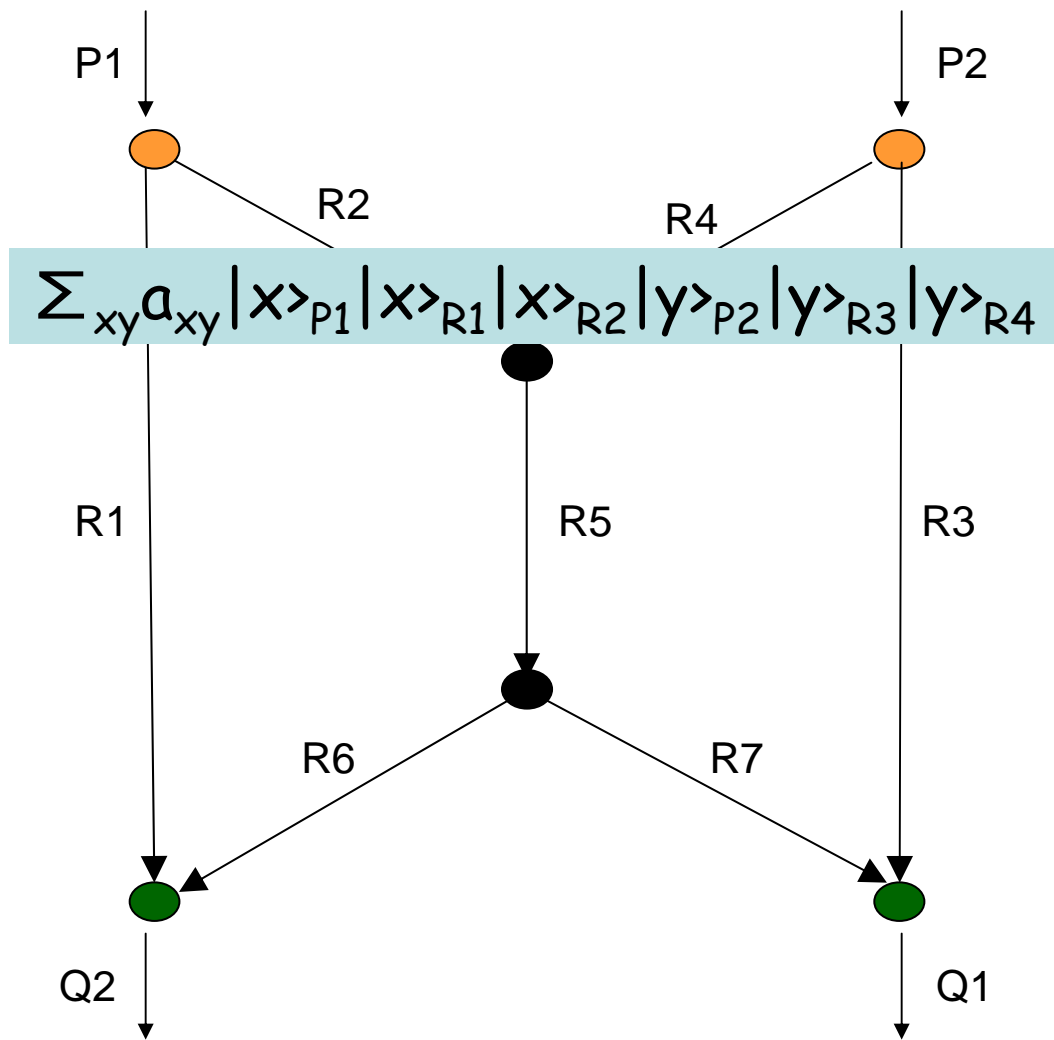
P1をR1,R2に「コピー」
P2をR3,R4に「コピー」

具体例



P1をR1,R2に「コピー」
P2をR3,R4に「コピー」

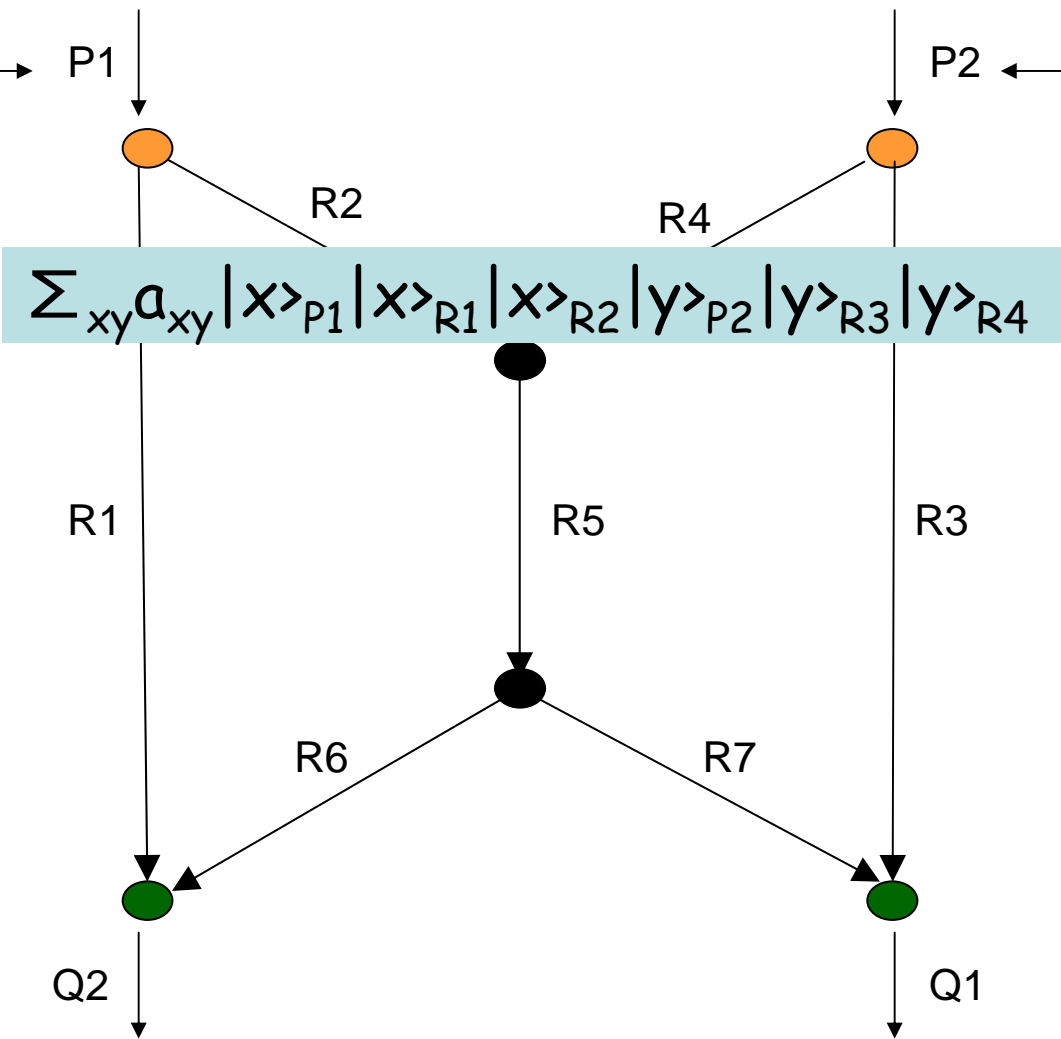
具体例



P1をR1,R2に「コピー」
P2をR3,R4に「コピー」

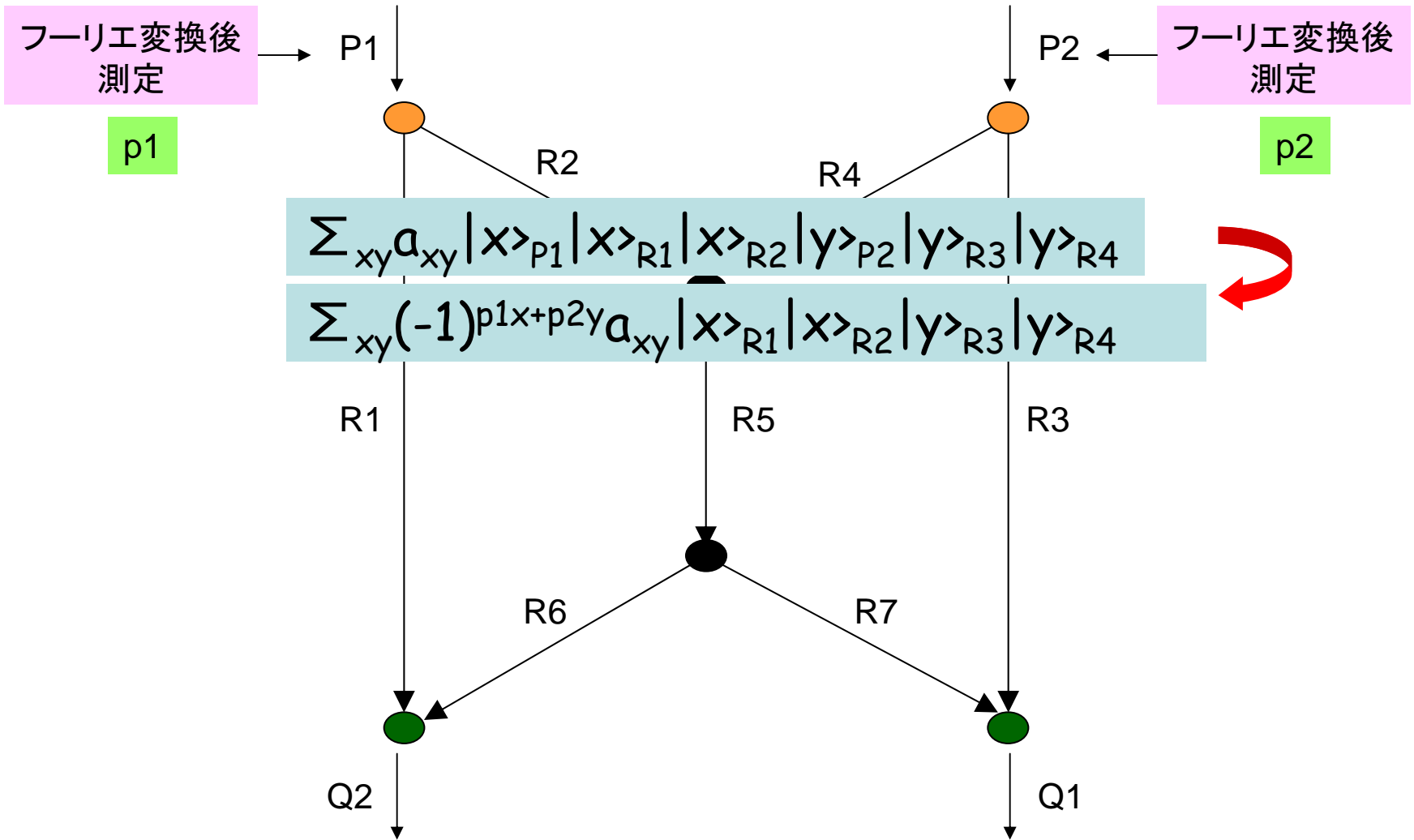
具体例

フーリエ変換後
測定

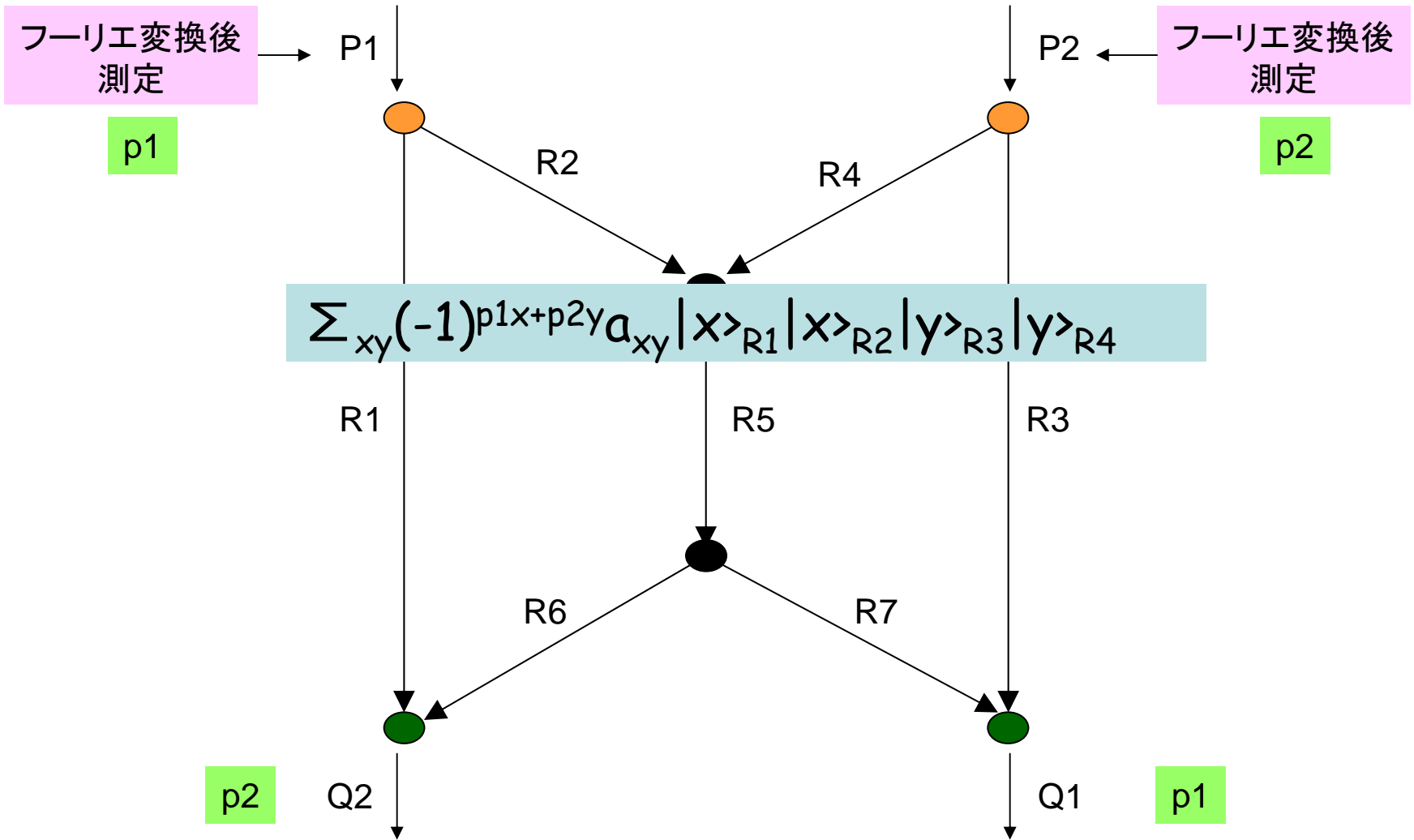


フーリエ変換後
測定

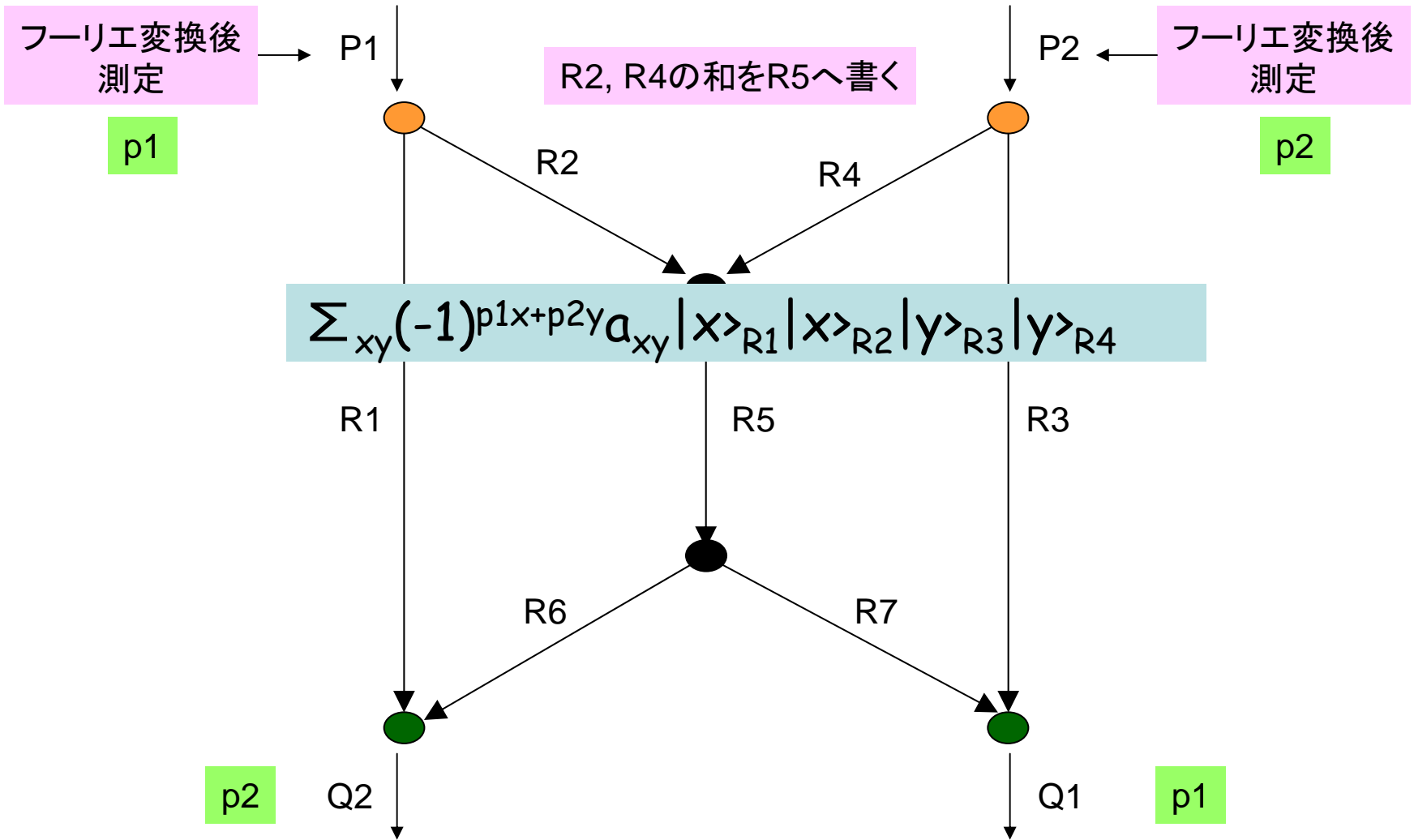
具体例



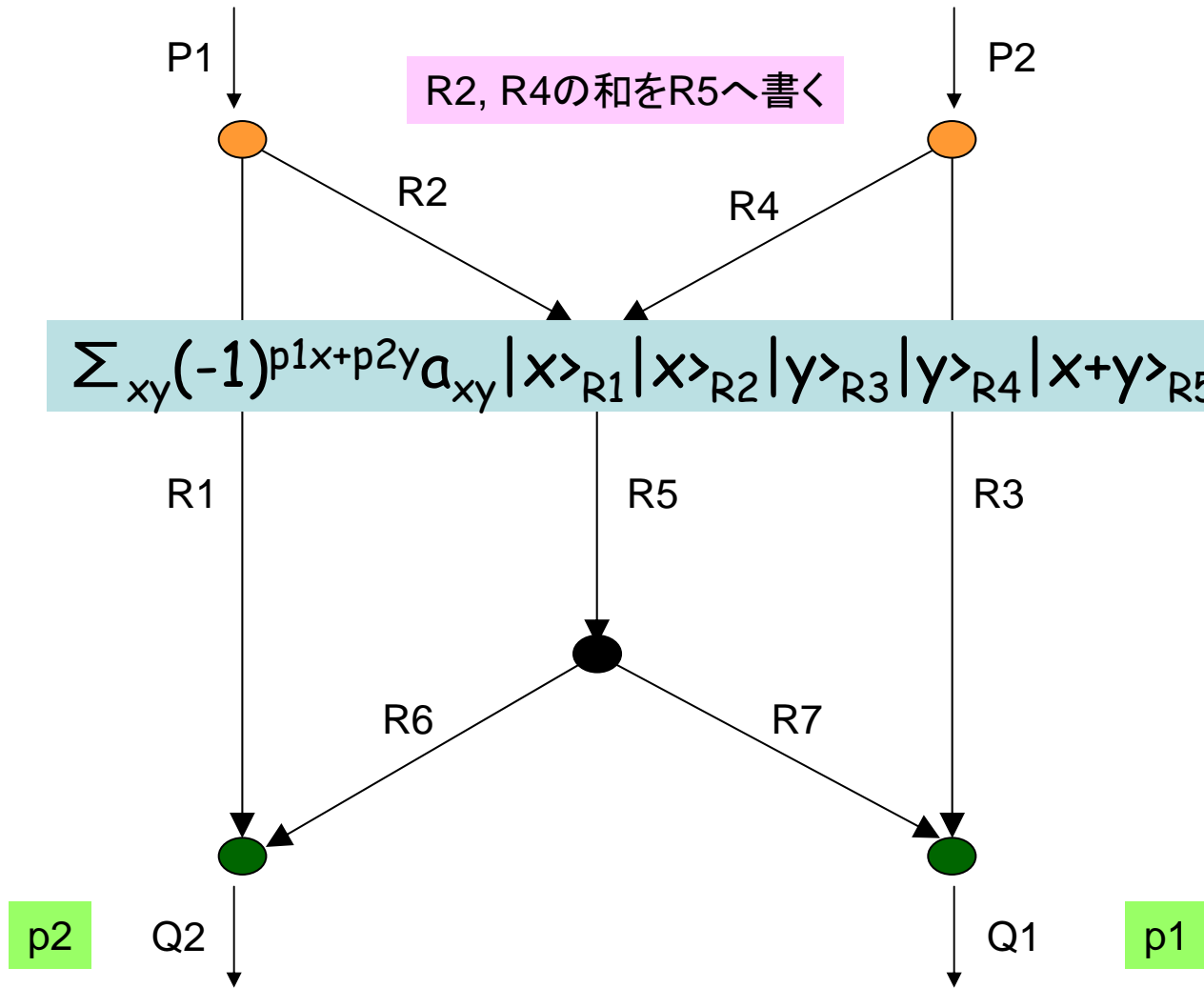
具体例



具体例

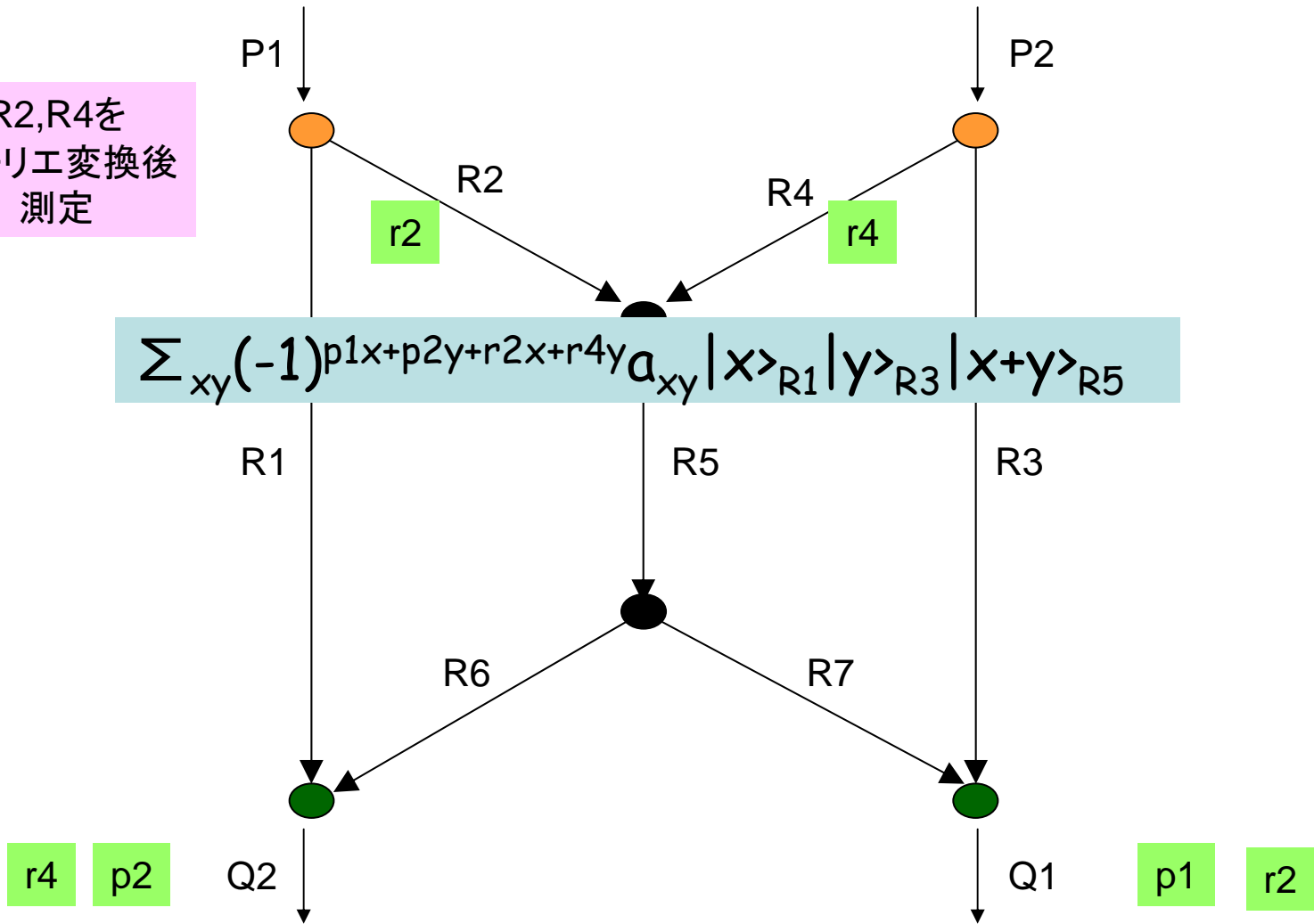


具体例



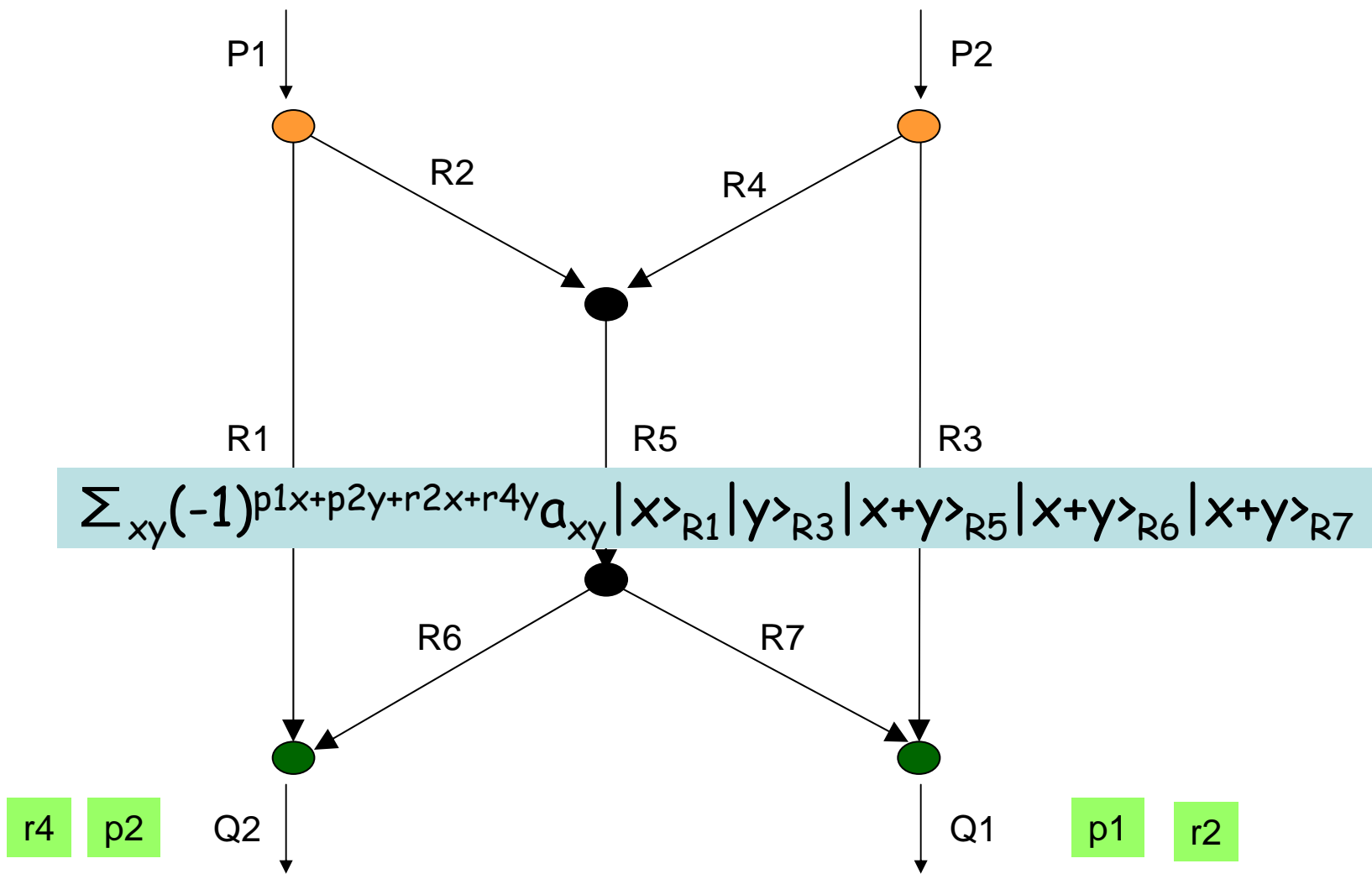
具体例

R2,R4を
フーリエ変換後
測定



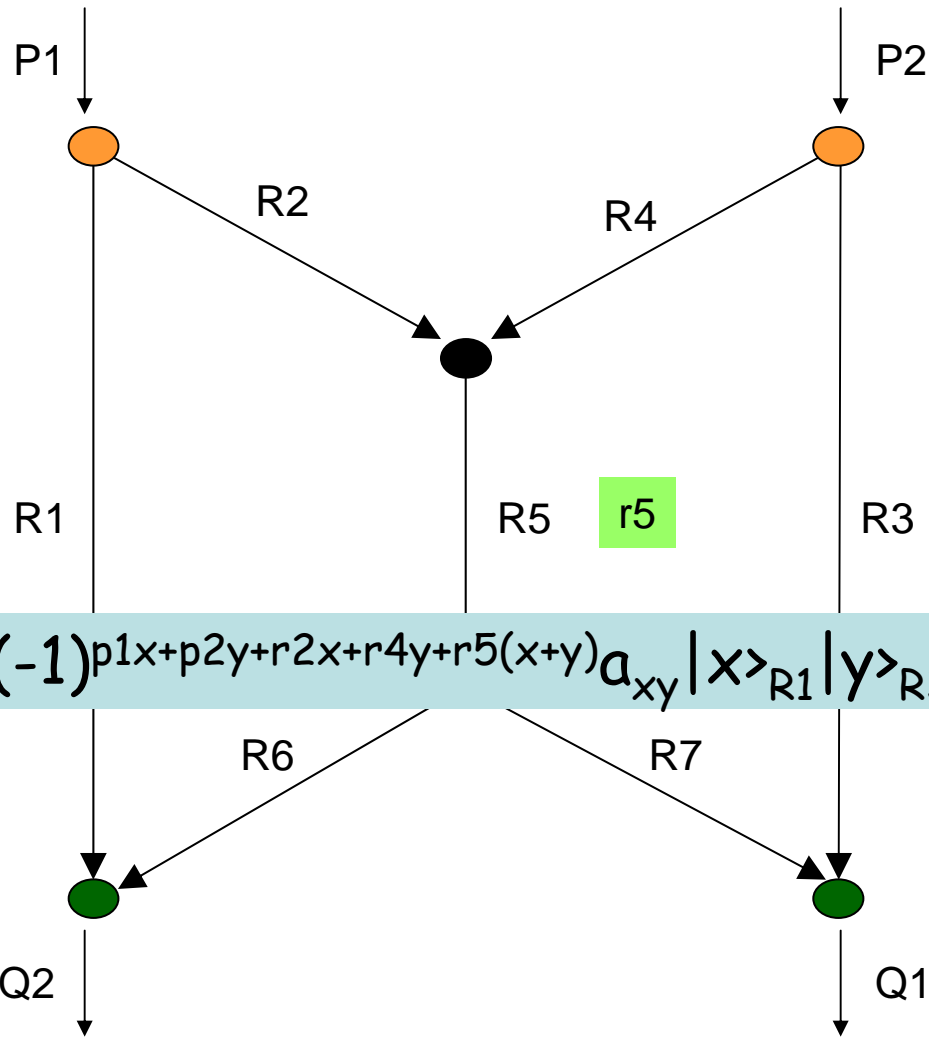
具体例

R5をR6,R7に「コピー」



具体例

R5を
フーリエ変換後
測定

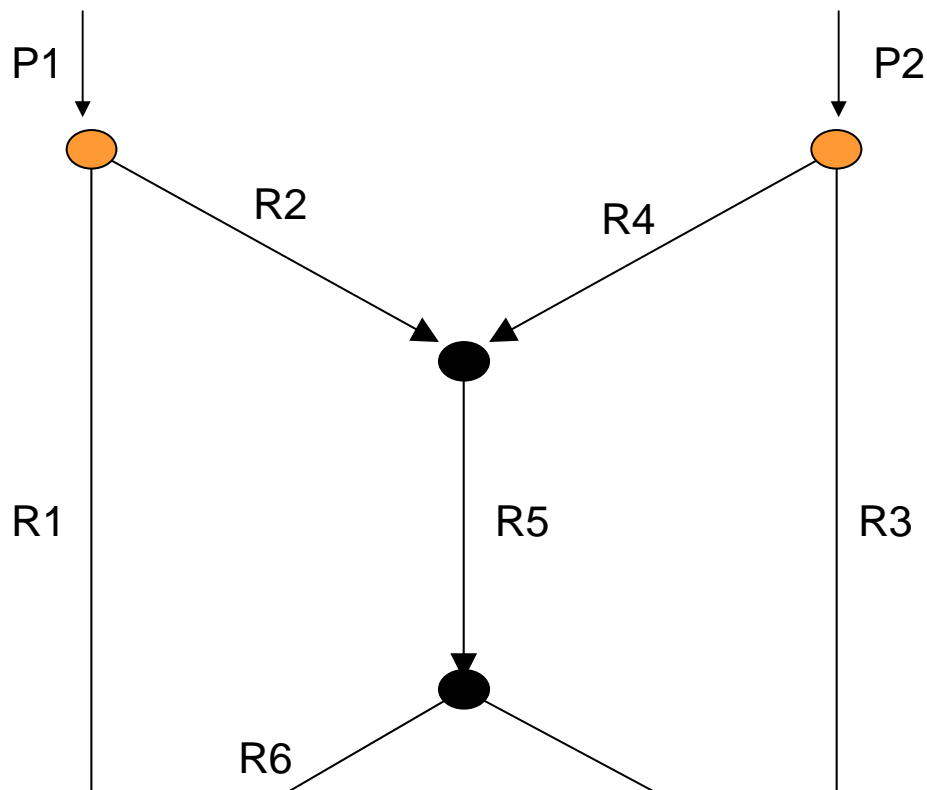


r5 r4 p2

p1 r2 r5

R7, R3の和をQ1へ書く
 R1, R6の和をQ2へ書く

具体例



$$\sum_{xy} (-1)^{p1x+p2y+r2x+r4y+r5(x+y)} a_{xy} |x\rangle_{R1} |y\rangle_{R3} |x+y\rangle_{R6} |x+y\rangle_{R7} |x\rangle_{Q1} |y\rangle_{Q2}$$

r5 r4 p2

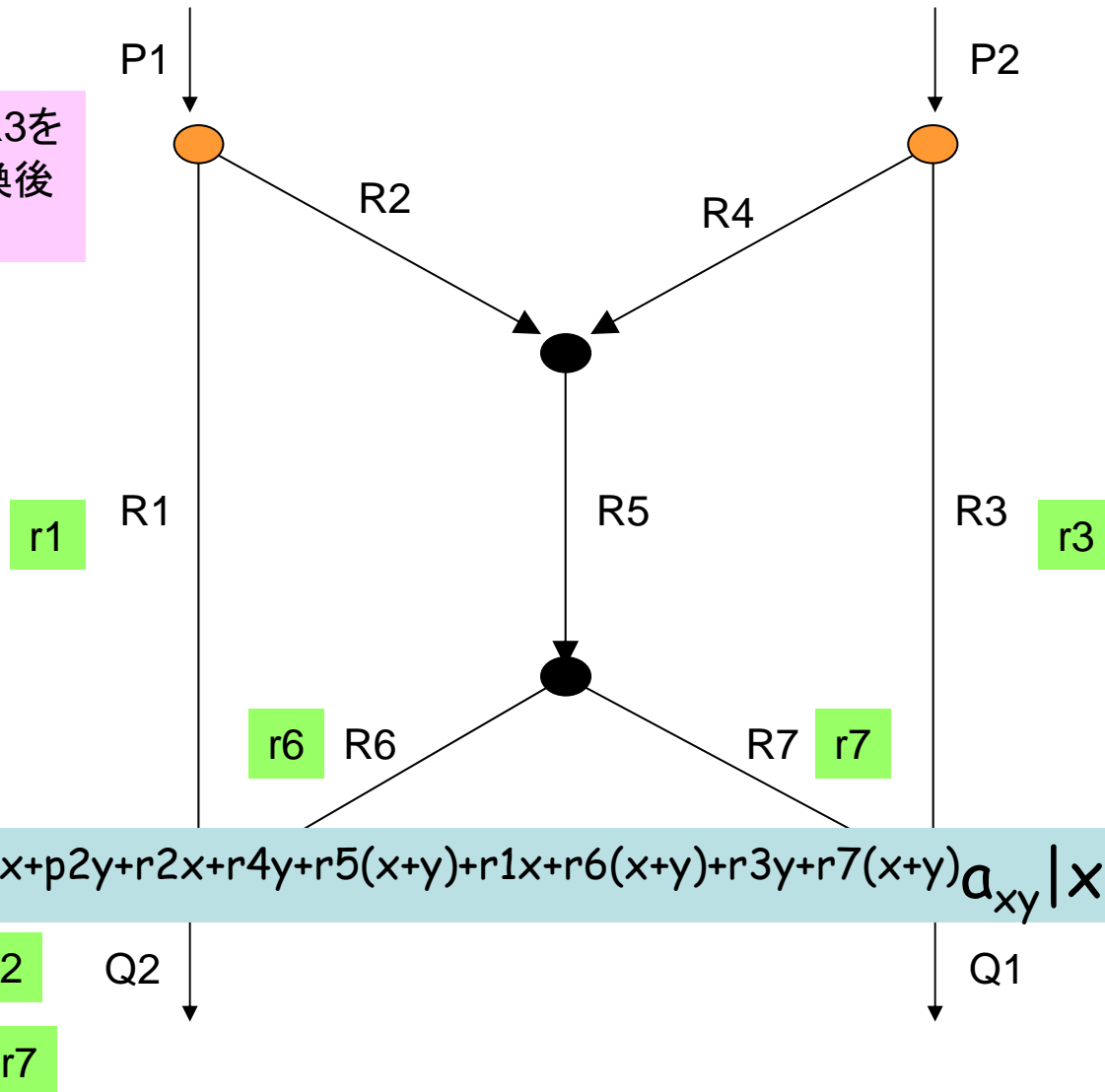
Q2

Q1

p1 r2 r5

具体例

R1,R6,R7,R3を
フーリエ変換後
測定

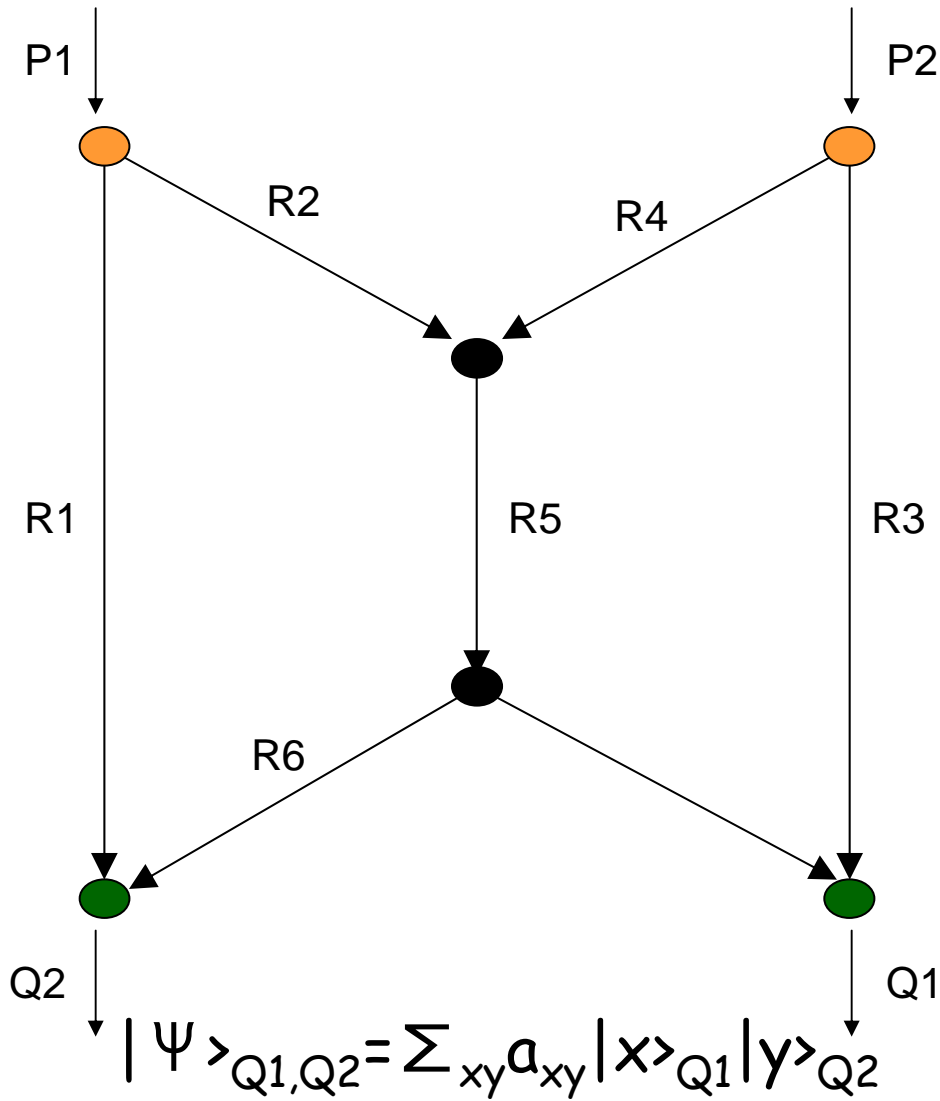


$$\sum_{xy} (-1)^{p_1x+p_2y+r_2x+r_4y+r_5(x+y)+r_1x+r_6(x+y)+r_3y+r_7(x+y)} a_{xy} |x\rangle_{Q1} |y\rangle_{Q2}$$

r5	r4	p2
r3	r6	r7

p1	r2	r5
r1	r6	r7

具体例



Q1, Q2で
位相エラーを訂正

- | | | |
|----|----|----|
| r5 | r4 | p2 |
| r3 | r6 | r7 |

- | | | |
|----|----|----|
| p1 | r2 | r5 |
| r1 | r6 | r7 |

今後の課題(狭い意味で)

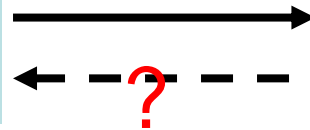
[補助的リソースが何も利用できない場合]

あるネットワーク符号問題が量子で可解ならば、その解はルーティングで
達成可能? ←ある非常に限られたクラスのネットワークのみ肯定的に証明

[Leung et al. 2010]

[補助的に古典通信が利用できる場合]

あるネットワーク符号問題が
古典で可解



自由に古典通信を認めたとき
量子で可解

実は・・・古典の未解決問題と関連するかも?

無向グラフにおける k ペア通信問題が可解ならば、かならずルーティングによる
解が存在する?

量子テレポーテーションを使うことで、
有向辺の逆向きに量子情報を送ることが
可能になるので、実質無向グラフ

今後の課題

- 一般のグラフにおける達成可能なレート
 - 応用(古典のワイヤレス通信のような)
 - セキュリティや計算量的側面における優位性
 - 損失のある量子チャネル
- などなど...

参考文献(古典のネットワーク符号関連)

- R. Alswede, N. Cai, S.-Y. R. Li, R. Yeung. Network information flow. IEEE Transactions on Information Theory 46(4), pp.1204-1216, 2000.
- K. Iwama, H. Nishimura, M. Paterson, R. Raymond, S. Yamashita. Polynomial-time construction of linear network coding. Proc. ICALP2008 (Lecture Notes in Computer Science 5125), pp.271-282, 2008.
- S. Jaggi, P. Sanders, P.A. Chou, M. Effros, S. Egner, K. Jain, L. Tolhuizen. Polynomial time algorithms for multicast network coding construction. IEEE Transactions on Information Theory 51(6), pp.1973-1982, 2005.
- A. R. Lehman. Network Coding. Ph.D. dissertation, MIT, 2005.
- A. Lehman, E. Lehman. Complexity classification of network information flow problems. Proc. SODA2004, pp.142-150, 2004
- S.-Y. R. Li, R. Yeung, N. Cai. Linear network coding. IEEE Transactions on Information Theory 49(2), pp.371-381, 2003.
- C.-C. Wang, N. B. Shroff. Beyond the butterfly – a graph-theoretic characterization of the feasibility of network coding with two simple unicast sessions. Proc. ISIT2007, pp. 121-125, 2007.

参考文献(量子ネットワーク符号関連)

- M. Hayashi. Prior entanglement between senders enables perfect quantum network coding with modification. *Physical Review A* 76(4), 040301(R), 2007.
- M. Hayashi, K. Iwama, H. Nishimura, R. Raymond, S. Yamashita. Quantum network coding. *Proc. STACS2007 (Lecture Notes in Computer Science 4393)*, pp.610-621, 2007. [quant-ph/0601088](https://arxiv.org/abs/quant-ph/0601088).
- H. Kobayashi, F. Le Gall, H. Nishimura, M. Roetteler. Perfect quantum network communication protocol based on classical network coding. *Proc. ISIT2010*, pp.2686-2690, 2010. [arXiv:0902.1299](https://arxiv.org/abs/0902.1299).
- H. Kobayashi, F. Le Gall, H. Nishimura, M. Roetteler. General scheme for perfect quantum network coding with free classical communication. *Proc. ICALP2009 (Lecture Notes in Computer Science 5555)*, pp.622-633, 2009. [arXiv:0908.1457](https://arxiv.org/abs/0908.1457).
- D. Leung, J. Oppenheim, A. Winter. Quantum network communication –the butterfly and the beyond. *IEEE Transactions on Information Theory* 56(7), pp.3478-3490, 2010. [quant-ph/0608223](https://arxiv.org/abs/quant-ph/0608223).
- Y. Shi, E. Soljanin. On multicast in quantum networks. *Proc. CISS2006*, pp.871-876, 2006.